

芦屋市人権についての職員意識調査

報 告 書

平成 27 年 3 月

芦 屋 市

— 目 次 —

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の対象	1
3. 調査方法	1
4. 調査時期	1
5. 調査の配布数と回収数	1
6. 報告書の留意点・見方	1
第2章 調査の結果	2
1. 回答者の属性	2
2. 人権全般に関することがらについて	3
3. 女性の人権について	25
4. 子どもの人権について	29
5. 高齢者の人権について	33
6. 障がいのある人の人権について	37
7. 同和問題について	41
8. 外国人の人権について	49
9. 人権問題に関する啓発活動について	53

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

平成27年度に「第2次芦屋市人権教育・人権啓発に関する総合推進指針」を見直すにあたり、人権について職員(特別職・臨時的任用職員を除く)の意識を把握することを目的に実施しました。

2. 調査の対象

市職員(特別職, 臨時的任用職員及び長期休暇者を除く) …………… 1,131 人
教職員(県費負担)(臨時講師, 非常勤講師及び長期休暇者を除く) …………… 277 人

3. 調査方法

庁内便による配布, 回収形式

4. 調査時期

市職員 …………… 平成26年8月21日から平成26年9月2日
教職員(県費負担) …… 平成26年9月4日から平成26年9月16日

5. 調査の配布数と回収数

配布数	回収数	回収率
1,408 人	1,128 人	80.1%

6. 報告書の留意点・見方

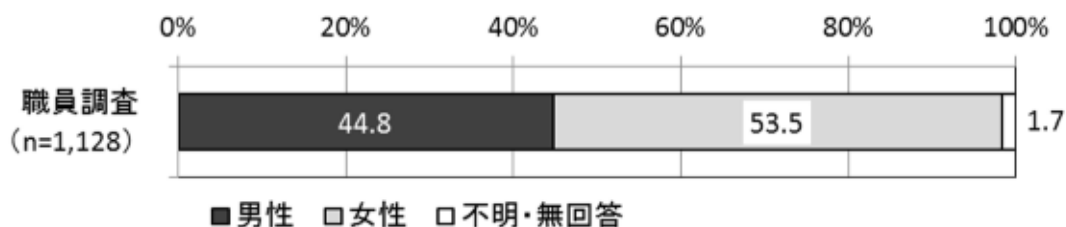
- ・図表中の(n)とは, 集計対象者実数(あるいは該当対象者実数)をさしています。
- ・図表の数値(%)は, すべて小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。そのため, 単数回答を含めた設問でも, 比率の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答を含めた設問では, 比率の合計が100%を超えます。
- ・無記入及び回答の読み取りが著しく困難な場合のほか, 回答を1つだけ求めている設問に対して2つ以上回答していた場合は「不明・無回答」として処理を行いました。
- ・集計結果の表記にあたり, 今回行いました「芦屋市人権についての職員意識調査」は職員調査と表記しています。また, 報告書の中で他調査と比較を行っており, それらの調査の詳細は以下の通りです。
市民調査 …… 芦屋市「人権についての市民意識調査報告書」平成26年9月実施
調査方法は, 郵送による配布・回収形式
- ・回答割合を比較する場合, 5.0ポイント以上の差がみられたものについて記述しています。

第2章 調査の結果

1. 回答者の属性

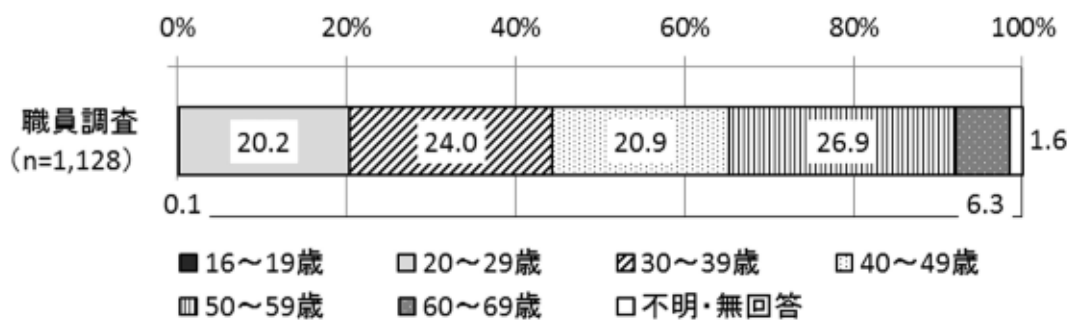
F1 あなたの性別は。

図表 F1 性別



F2 あなたの年齢は。(平成26年9月1日現在)

図表 F2-1 年齢

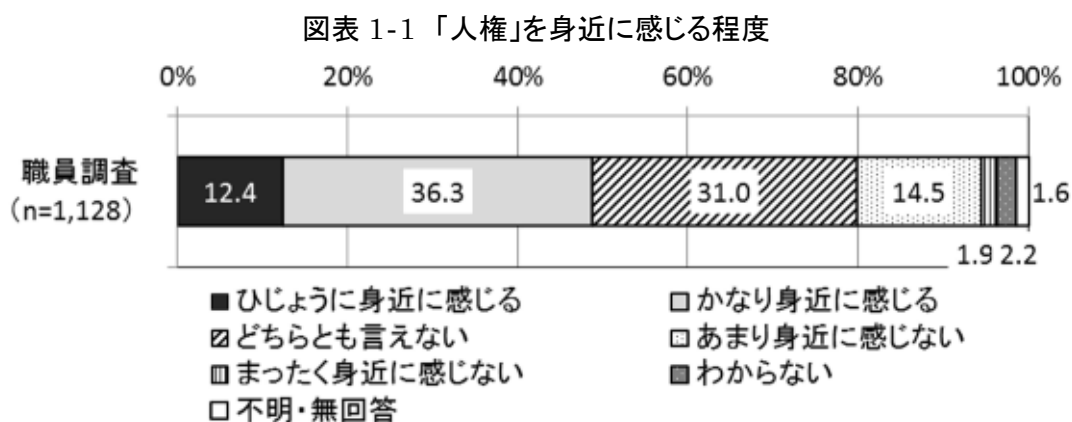


図表 F2-2 性別×年齢クロス

	合計	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	不明・無回答
全体	1,128人	229人	271人	236人	303人	71人	18人
	100.0%	20.3%	24.0%	20.9%	26.9%	6.3%	1.6%
男性	505人	107人	116人	94人	143人	43人	2人
	100.0%	21.2%	23.0%	18.6%	28.3%	8.5%	0.4%
女性	604人	121人	155人	142人	158人	28人	0人
	100.0%	20.0%	25.7%	23.5%	26.2%	4.6%	0.0%

2. 人権全般に関することがらについて

問1 あなたは、「人権」ということを、どの程度身近に感じておられますか。



人権を身近に感じる程度について、「かなり身近に感じる」が 36.3%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が 31.0%、「あまり身近に感じない」が 14.5%となっています。また、“身近に感じる(「ひじょうに身近に感じる」と「かなり身近に感じる」の合計)”が 48.7%に対して、“身近に感じない(「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」の合計)”が 16.4%と、「人権」ということを身近に感じる人の方が多くなっています。

性別にみると、男女ともに“身近に感じる”が最も多くなっています。年齢別にみると、10～20 歳代と 40 歳代以上では“身近に感じる”，30 歳代では「どちらとも言えない」が最も多くなっています。

図表 1-2 性別・年齢別×「人権」を身近に感じている程度

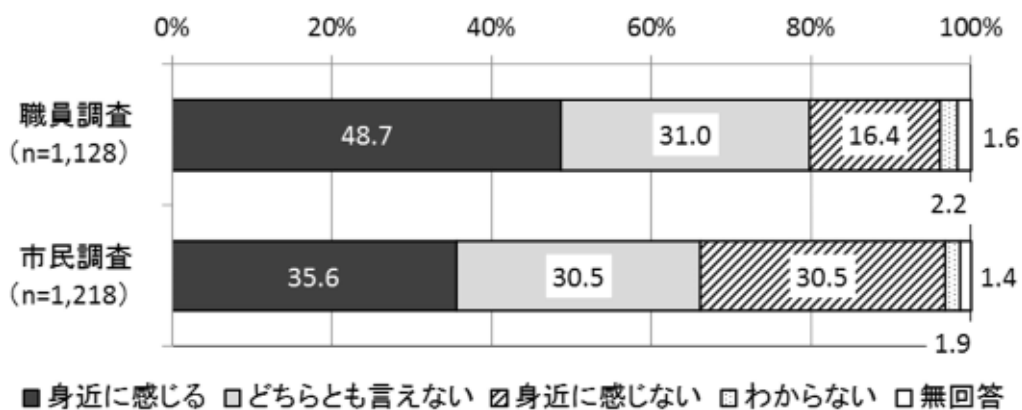
	(n)	身近に感じる	どちらとも言えない	身近に感じない	わからない	不明・無回答
全体	1,128	48.7	31.0	16.4	2.2	1.6
男性	505	45.0	31.7	20.4	2.8	0.2
女性	604	53.1	31.5	13.4	1.7	0.3
10～20 歳代	229	48.8	31.0	16.4	2.2	1.6
30 歳代	271	35.4	39.3	23.1	1.7	0.4
40 歳代	236	39.9	35.1	21.0	3.7	0.4
50 歳代	303	52.5	29.2	15.7	2.1	0.4
60 歳代	71	64.4	25.1	9.2	1.3	0.0

講演会参加状況別に“身近に感じる”と回答した人の割合をみると、参加した人では 62.0%だったのに対して、参加したことがない人では 29.3%と、32.7 ポイントの差が見られました。

図表 1-3 講演会参加状況別×「人権」を身近に感じている程度

	(n)	身近に感じる	どちらとも言えない	身近に感じない	わからない	不明・無回答
人権講演会等に参加した	664	62.0	26.7	8.7	1.1	1.5
人権講演会等に参加したことがない	434	29.3	38.5	28.1	3.5	0.7

図表 1-4 「人権」を身近に感じている程度【市民との比較】

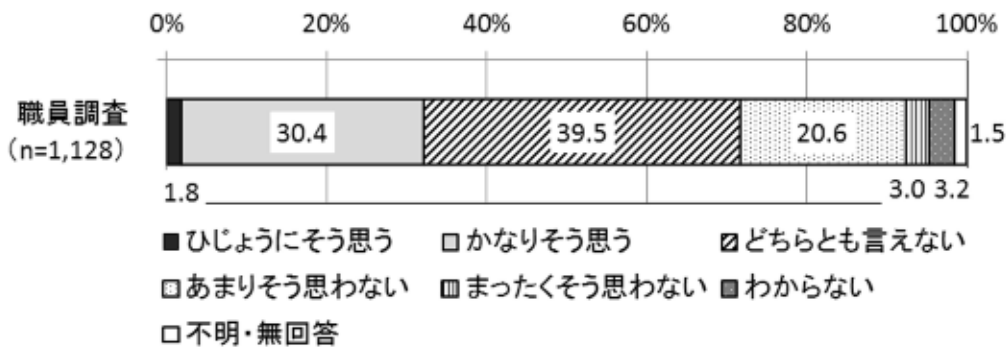


市民調査と“身近に感じる”と回答した人の割合を比較すると、職員調査では 48.7%だったのに対して、市民調査では 35.6%となっており、職員調査の方が 13.1 ポイント高い結果となりました。

問2 次の①～③のそれぞれについて、あなたはどのように思われますか。

① 今の日本の社会は、人権が尊重されていると思いますか。

図表 2-1-1 日本の社会は人権が尊重されているか



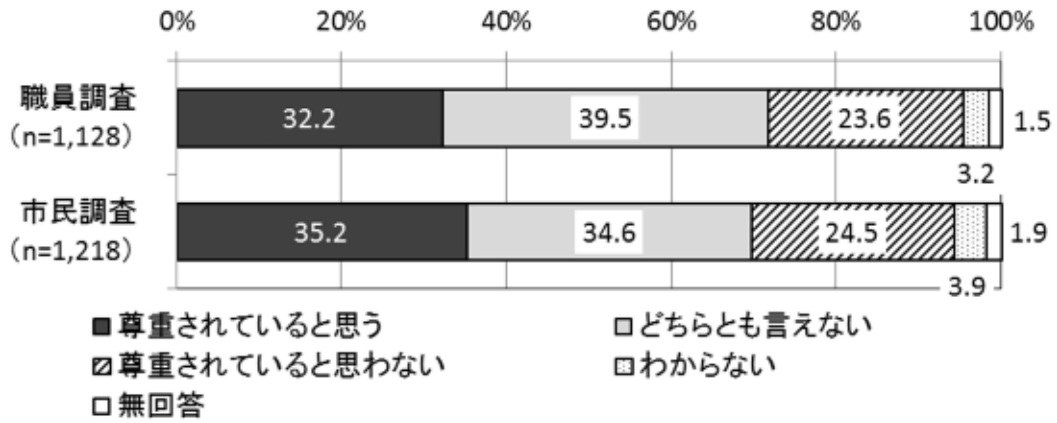
日本の社会は人権が尊重されているかについて、「どちらとも言えない」が39.5%と最も多く、次いで「かなりそう思う」が30.4%、「あまりそう思わない」が20.6%となっています。また、“尊重されていると思う(「ひじょうにそう思う」と「かなりそう思う」の合計)”が32.2%に対して、“尊重されていると思わない(「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計)”が23.6%と、今の日本の社会で人権が尊重されていると思う人が多くなっています。

性別にみると、男性では“尊重されていると思う”が39.6%、女性では「どちらとも言えない」が43.5%と最も多くなっています。年齢別にみると、10～20歳代、30歳代、40歳代と50歳代では「どちらとも言えない」、60歳代では“尊重されていると思わない”が最も多くなっています。

図表 2-1-2 性別・年齢別×日本の社会は人権が尊重されているか

	(n)	尊重されていると思う	どちらとも言えない	尊重されていると思わない	わからない	不明・無回答
全体	1,128	32.2	39.5	23.6	3.2	1.5
男性	505	39.6	35.6	20.4	4.0	0.4
女性	604	27.0	43.5	26.8	2.5	0.2
10～20歳代	229	34.1	42.8	17.5	5.7	0.0
30歳代	271	32.8	41.0	20.7	5.2	0.4
40歳代	236	31.8	43.2	23.7	1.3	0.0
50歳代	303	31.4	38.6	28.1	1.3	0.7
60歳代	71	36.6	22.5	39.4	1.4	0.0

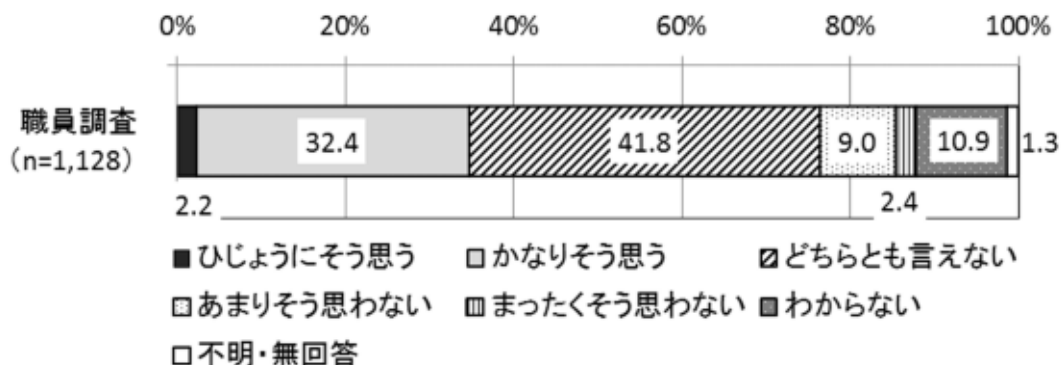
図表 2-1-3 日本の社会は人権が尊重されているか【市民との比較】



市民調査と比較すると、それぞれの項目の回答した人の割合に、5.0ポイント以上の大きな差は見られませんでした。

② 芦屋市では、人権が尊重されていると思いますか。

図表 2-2-1 芦屋市は人権が尊重されているか



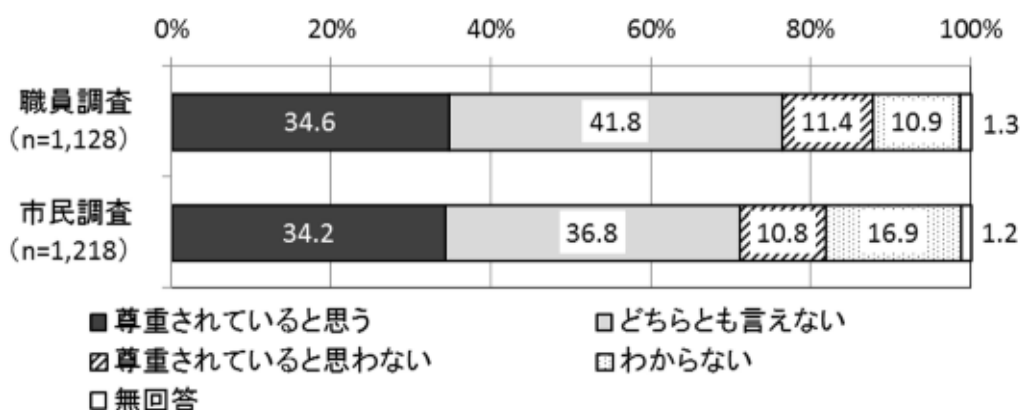
芦屋市では人権が尊重されているかについて、「どちらとも言えない」が 41.8%と最も多く、次いで「かなりそう思う」が 32.4%、「わからない」が 10.9%となっています。

性別にみると、男性では“尊重されていると思う”が 39.4%、女性では「どちらとも言えない」が 45.5%と最も多くなっています。年齢別にみると、10～20 歳代、30 歳代、40 歳代と 50 歳代では「どちらとも言えない」、60 歳代では“尊重されていると思う”が最も多くなっています。

図表 2-2-2 性別・年齢別×芦屋市は人権が尊重されているか

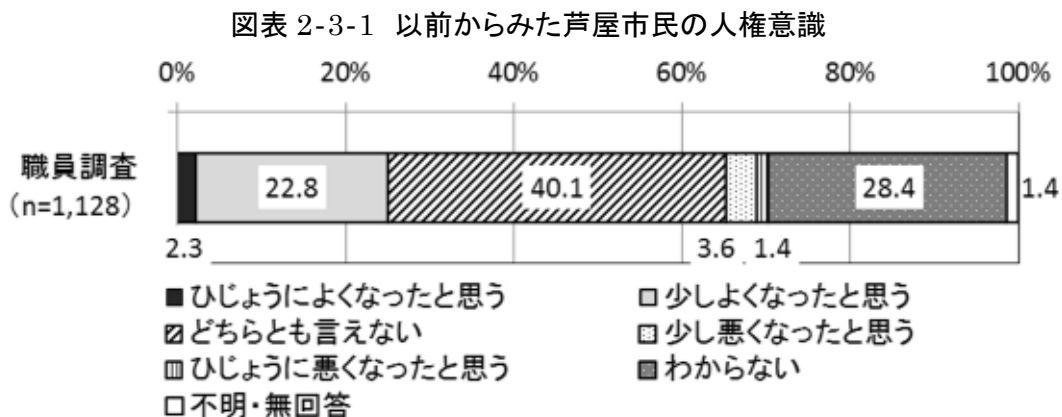
	(n)	尊重されていると思う	どちらとも言えない	尊重されていると思わない	わからない	不明・無回答
全体	1,128	34.6	41.8	11.4	10.9	1.3
男性	505	39.4	38.2	12.3	10.1	0.0
女性	604	31.8	45.5	10.8	11.8	0.2
10～20 歳代	229	34.9	38.4	9.2	17.5	0.0
30 歳代	271	32.1	46.1	7.7	13.7	0.4
40 歳代	236	33.5	45.3	12.3	8.9	0.0
50 歳代	303	38.3	39.9	14.9	6.9	0.0
60 歳代	71	40.8	39.4	16.9	2.8	0.0

図表 2-2-3 芦屋市は人権が尊重されているか【市民との比較】



市民調査と比較すると、「どちらとも言えない」と回答した人の割合は 5.0 ポイント高く、「わからない」と回答した人の割合が 6.0 ポイント低い結果となりました。

③ 芦屋市民の人権意識（お互いの人権を尊重する意識）の現状はどのようになっていると思いますか。



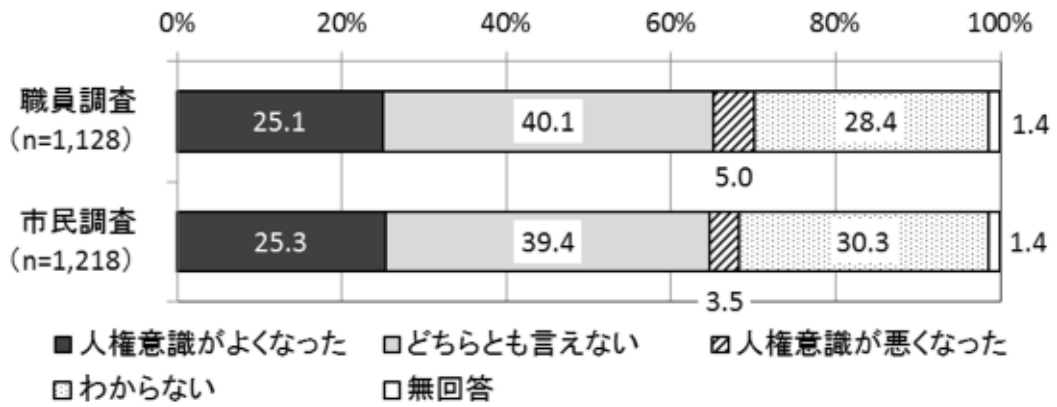
以前からみた芦屋市民の人権意識について、「どちらとも言えない」が 40.1%と最も多く、次いで「わからない」が 28.4%、「少しよくなったと思う」が 22.8%となっています。また、「人権意識がよかった（「ひじょうによくなったと思う」と「少しよくなったと思う」の合計）」が 25.1%と、「どちらとも言えない」の 40.1%よりも低く、人権意識に大きな変化を感じていない人が多くなっています。

性別にみると、男女ともに「どちらとも言えない」が最も多くなっています。年齢別にみると、10～20歳代では「わからない」、30歳代、40歳代と50歳代では「どちらとも言えない」、60歳代では「人権意識がよかった」が最も多くなっています。

図表 2-3-2 性別・年齢別×以前からみた芦屋市民の人権意識

	(n)	人権意識がよくなった	どちらとも言えない	人権意識が悪くなった	わからない	不明・無回答
全体	1,128	25.1	40.1	5.0	28.4	1.4
男性	505	24.2	41.8	6.9	27.1	0.0
女性	604	26.3	39.7	3.6	30.1	0.2
10～20歳代	229	16.6	32.3	1.7	49.3	0.0
30歳代	271	21.4	40.2	4.8	33.2	0.4
40歳代	236	22.0	47.9	5.9	24.2	0.0
50歳代	303	35.3	42.2	5.9	16.5	0.0
60歳代	71	39.4	38.0	11.3	11.3	0.0

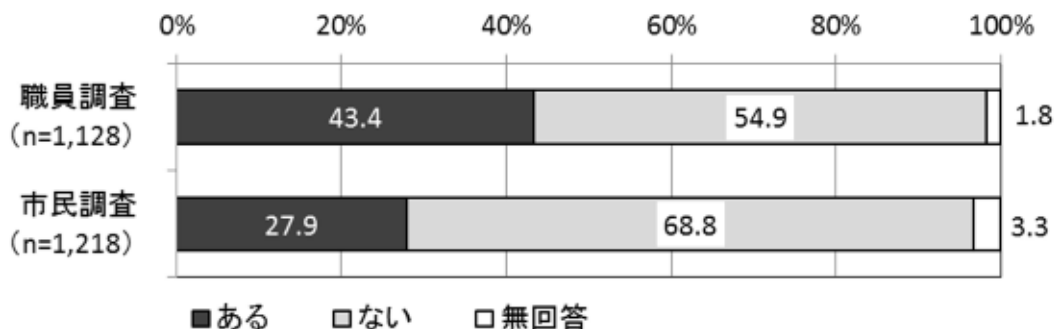
図表 2-3-3 以前からみた芦屋市民の人権意識【市民との比較】



市民調査と比較すると、それぞれの項目の回答した人の割合に、5.0ポイント以上の大きな差は見られませんでした。

問3 あなたは、今までに、自分の人権が侵害されたと思われたことがありますか。

図表 3-0-1 人権を侵害された経験



人権を侵害された経験について、「ある」が 43.4%、「ない」が 54.9%と、人権を侵害された経験がない人の方が多くなっています。市民調査と比較すると、「ある」と回答した人の割合が 15.5 ポイント高い結果となりました。

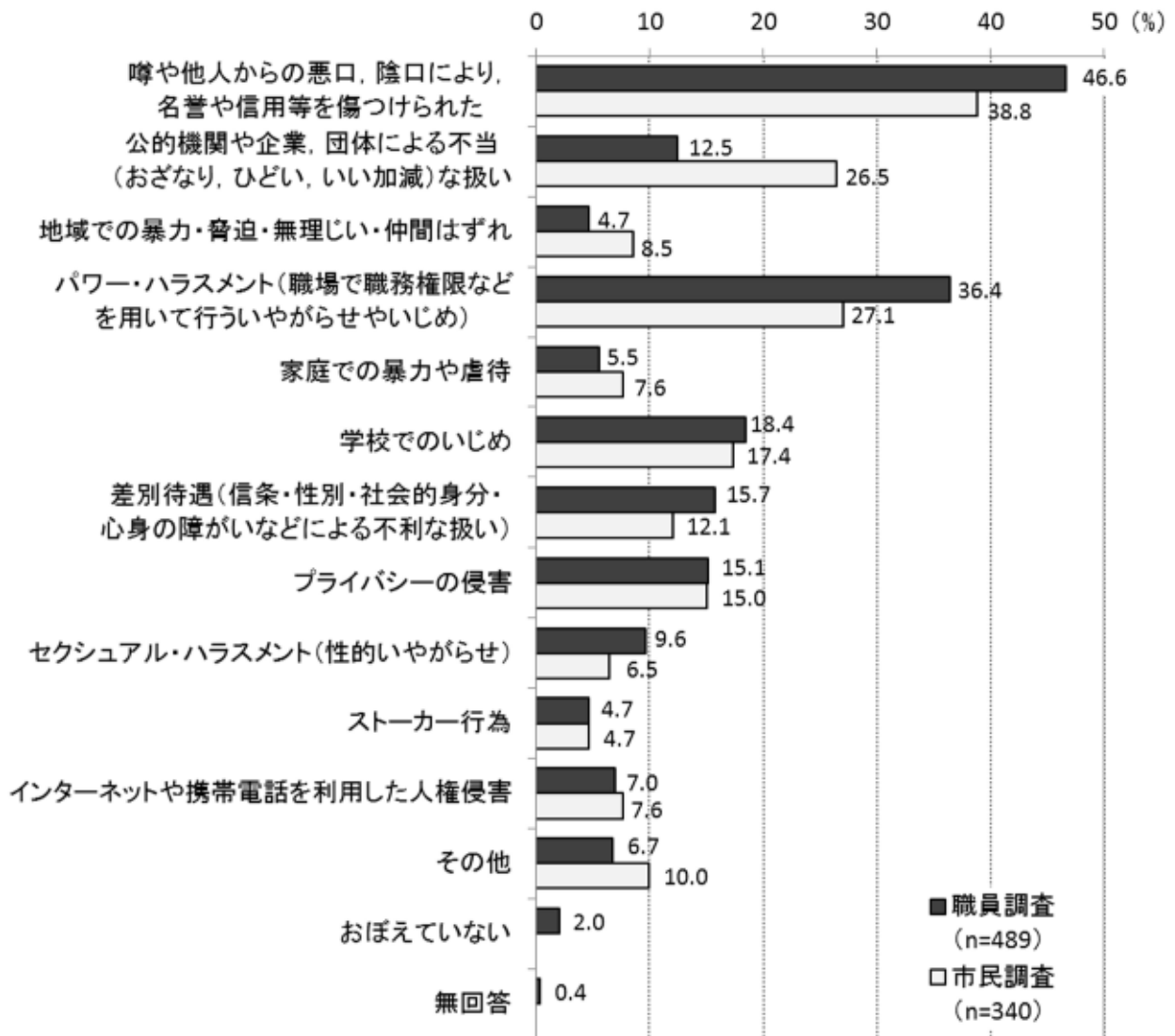
性別に「ある」と回答した人の割合をみると、男性では 38.0%、女性では 47.8%と、女性の方が 9.8 ポイント高くなっています。年齢別に「ある」と回答した人の割合をみると、50 歳代(49.2%)が最も高く、次いで 40 歳代(46.6%)、30 歳代(41.0%)となっています。

図表 3-0-2 性別・年齢別×人権を侵害された経験

	(n)	ある	ない	不明・無回答
全体	1,128	43.4	54.9	1.8
男性	505	38.0	60.6	1.4
女性	604	47.8	50.7	1.5
10～20 歳代	229	35.4	62.9	1.7
30 歳代	271	41.0	57.6	1.5
40 歳代	236	46.6	53.4	0.0
50 歳代	303	49.2	48.5	2.3
60 歳代	71	40.8	57.7	1.4

問 3-1 どのような人権侵害でしたか。【複数回答】（問 3 で「ある」と回答した人のみ）

図表 3-1-1 受けた人権侵害の内容



受けた人権侵害の内容として、「噂や他人からの悪口、陰口により、名誉や信用等を傷つけられた」が 46.6%と最も多く、次いで「パワー・ハラスメント(職場で職務権限などを用いて行ういやがらせやいじめ)」が 36.4%、「学校でのいじめ」が 18.4%となっています。市民調査と比較すると、「噂や他人からの悪口、陰口により、名誉や信用等を傷つけられた」、「パワー・ハラスメント(職場で職務権限などを用いて行ういやがらせやいじめ)」については、回答した人の割合が 5.0 ポイント以上高くなった一方、「公的機関や企業、団体による不当(おごなり、ひどい、いい加減)な扱い」については、回答した人の割合が 5.0 ポイント以上低い結果となりました。

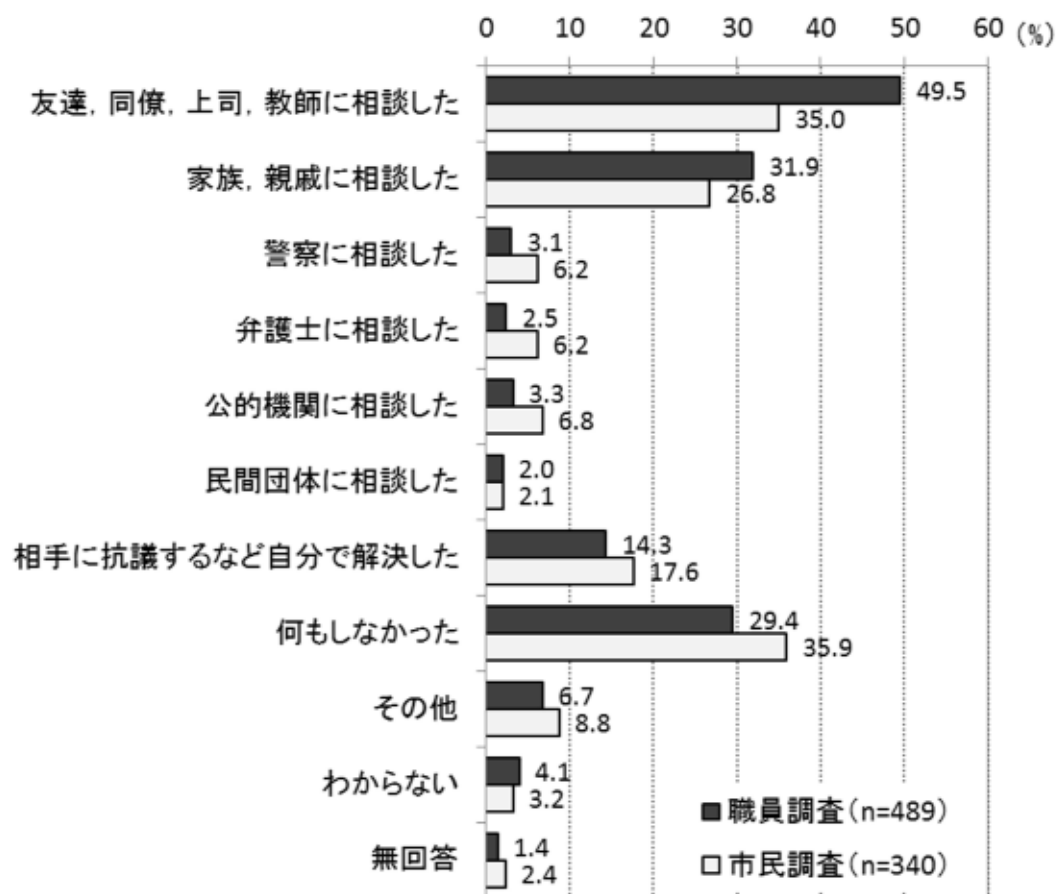
性別にみると、男女ともに「噂や他人からの悪口、陰口により、名誉や信用等を傷つけられた」が最も多く、次いで「パワー・ハラスメント」が多くなっています。続いて、年齢別にみると、いずれの年齢も「噂や他人からの悪口、陰口により、名誉や信用等を傷つけられた」が、60歳代では「パワー・ハラスメント」も同率で最も多くなっています。

図表 3-1-2 性別・年齢別×受けた人権侵害の内容

	(n)	名誉や信用等を傷つけられた	公的機関等による不当な扱い	地域での暴力や仲間はずれ	パワー・ハラスメント	家庭での暴力や虐待	学校でのいじめ	差別待遇	プライバシーの侵害	セクシュアル・ハラスメント	ストーカー行為	ネット等を利用した人権侵害	その他	おぼえていない	不明・無回答
全体	489	46.6	12.5	4.7	36.4	5.5	18.4	15.7	15.1	9.6	4.7	7.0	6.7	2.0	0.4
男性	192	46.4	11.5	5.2	36.5	4.2	18.8	17.7	15.6	2.1	0.5	6.8	4.2	4.2	0.0
女性	289	46.7	13.5	4.2	36.3	6.2	17.6	13.5	14.5	14.2	7.6	6.9	8.3	0.7	0.7
10～20歳代	81	50.6	8.6	4.9	25.9	2.5	27.2	8.6	13.6	9.9	1.2	6.2	3.7	4.9	0.0
30歳代	111	52.3	11.7	4.5	37.8	4.5	19.8	7.2	18.0	9.0	7.2	11.7	3.6	0.9	0.0
40歳代	110	44.5	16.4	4.5	41.8	5.5	20.0	10.9	16.4	15.5	6.4	4.5	6.4	1.8	0.9
50歳代	149	43.0	12.8	4.7	36.2	8.1	12.1	24.2	14.1	6.0	4.7	5.4	10.7	2.0	0.7
60歳代	29	37.9	10.3	3.4	37.9	3.4	6.9	37.9	3.4	3.4	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0

問 3-2 人権が侵害されたとき、どうしましたか。また、1～6 を選んだ方は相談することによって、その問題は解決しましたか。【複数回答】

図表 3-2-1 人権が侵害されたときの対処



人権が侵害されたときの対処として、「友達, 同僚, 上司, 教師に相談した」が 49.5%と最も多く、次いで「家族, 親戚に相談した」が 31.9%、「何もしなかった」が 29.4%となっています。市民調査と比較すると、「友達, 同僚, 上司, 教師に相談した」、「家族, 親戚に相談した」については、回答した人の割合が 5.0 ポイント以上高くなった一方、「何もしなかった」については、回答した人の割合が 5.0 ポイント以上低い結果となりました。

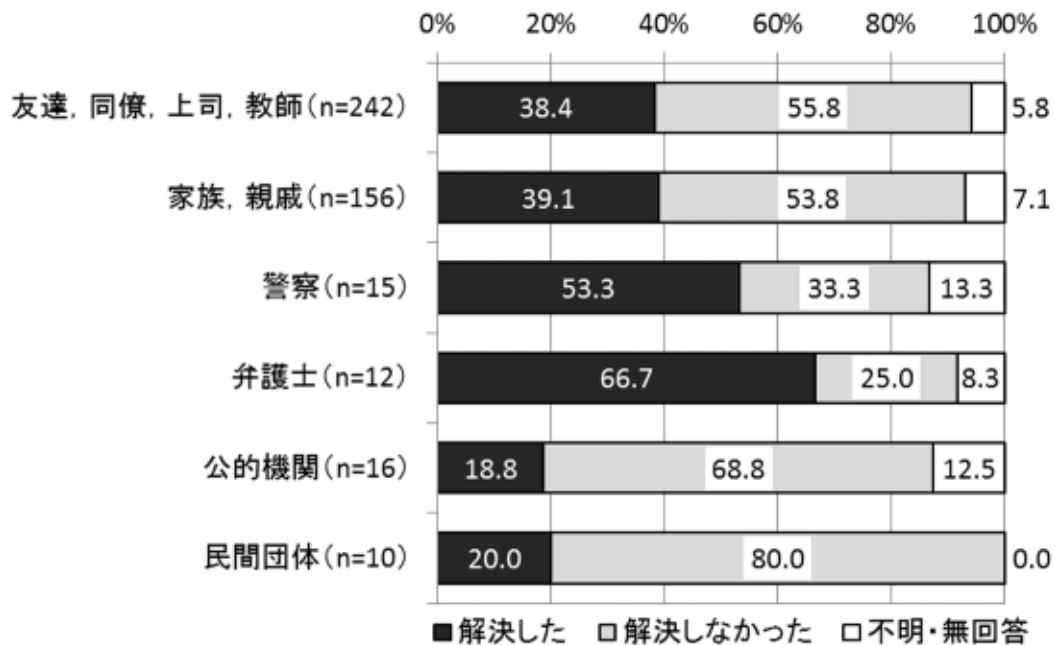
性別にみると、男性では「何もしなかった」が 39.6%、女性では「家族、親戚に相談した」が 59.5%と最も多くなっています。「何もしなかった」と回答した人の割合は、男女間で 16.8 ポイントの差が見られました。続いて、年齢別にみると、10～20 歳代から 50 歳代では「友達、同僚、上司、教師に相談した」、60 歳代では「何もしない」が最も多くなっています。「何もしなかった」と回答した人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっています。

図表 3-2-2 性別・年齢別×人権が侵害されたときの対処

	(n)	友達、同僚、上司、教師に相談した	家族、親戚に相談した	警察に相談した	弁護士に相談した	公的機関に相談した	民間団体に相談した	相手に抗議するなど自分で解決した	何もしなかった	その他	おぼえていない	不明・無回答
全体	489	49.5	31.9	3.1	2.5	3.3	2.0	14.3	29.4	6.7	4.1	1.4
男性	192	34.4	20.8	1.0	1.6	3.1	2.1	16.7	39.6	3.6	6.3	1.6
女性	289	59.5	39.1	4.2	2.4	3.5	2.1	12.8	22.8	8.7	2.8	1.4
10～20 歳代	81	60.5	39.5	0.0	0.0	1.2	1.2	11.1	23.5	3.7	7.4	0.0
30 歳代	111	50.5	36.9	5.4	0.9	1.8	0.9	11.7	27.0	3.6	7.2	1.8
40 歳代	110	60.0	35.5	4.5	2.7	2.7	0.9	10.9	30.9	3.6	2.7	0.9
50 歳代	149	39.6	22.8	2.0	4.7	6.0	4.7	18.1	31.5	10.7	1.3	2.7
60 歳代	29	24.1	24.1	0.0	0.0	3.4	0.0	24.1	37.9	13.8	3.4	0.0

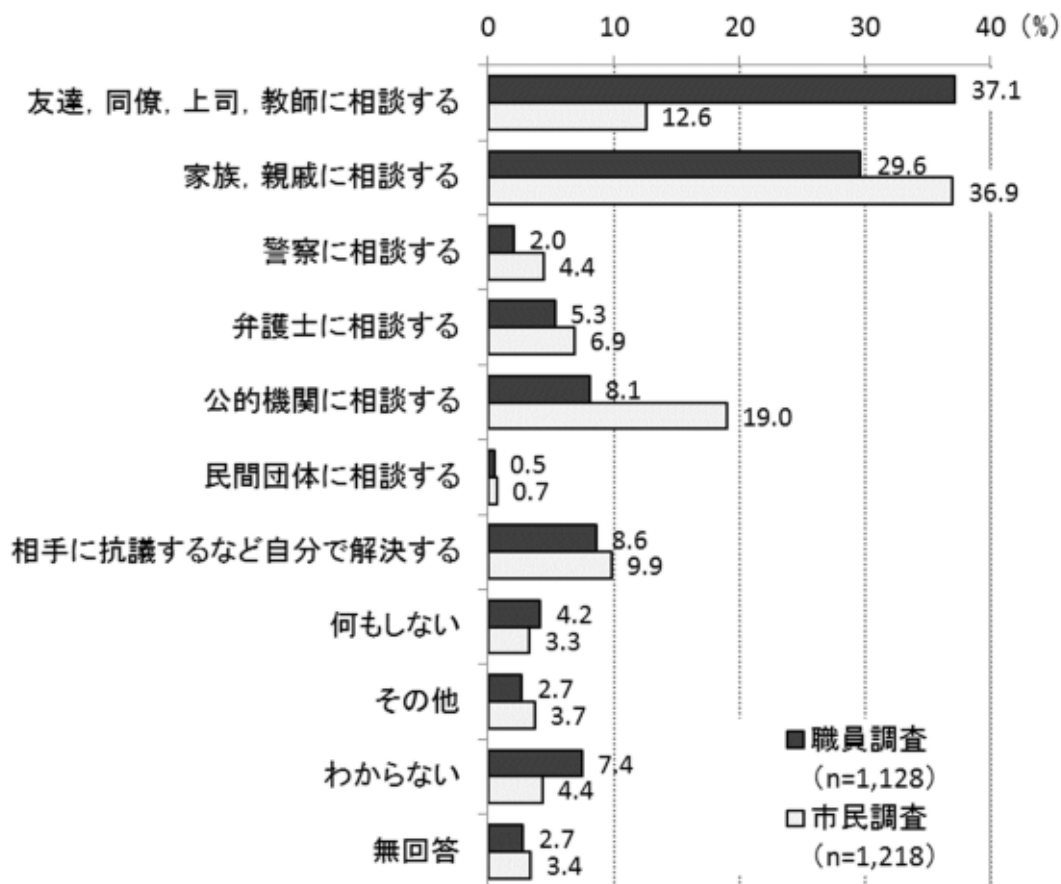
相談した結果、問題が解決したかをたずねたところ、警察あるいは弁護士に相談した人では、半数以上の方が「解決した」と回答しています。一方、公的機関や民間団体に相談した人のうち「解決した」人は20%以下にとどまっています。

図表 3-2-4 相談先別にみる問題解決の有無



問 4 今後もし、あなたが、自分の人権を侵害された場合、まずどのような対応をされますか。
【複数回答】

図表 4-1 今後、人権が侵害された場合の対処



今後、人権が侵害された場合の対処として、「友達、同僚、上司、教師に相談する」が 37.1%、次いで「家族、親戚に相談する」が 29.6%、「相手に抗議するなど自分で解決する」が 8.6%となっています。市民調査と比較すると、「友達、同僚、上司、教師に相談する」と回答した人の割合が 24.5 ポイント高い結果となりました。一方、「家族、親戚に相談する」、「公的機関に相談する」と回答した人の割合については、5.0 ポイント以上低い結果となりました。

性別にみると、男女ともに「友達、同僚、上司、教師に相談する」が最も多くなっています。年齢別にみると、10～20歳代、40歳代、50歳代と60歳代では「友達、同僚、上司、教師に相談する」、30歳代では「家族、親戚に相談する」が最も多くなっています。

図表 4-2 性別・年齢別×今後、人権が侵害された場合の対処

	(n)	友達、同僚、上司、教師に相談する	家族、親戚に相談する	警察に相談する	弁護士に相談する	公的機関に相談する	民間団体に相談する	相手に抗議するなど自分で解決する	何もしない	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	37.1	29.6	2.0	5.3	8.1	0.5	8.6	4.2	2.7	7.4	2.7
男性	505	28.9	22.6	2.8	7.3	10.7	0.8	12.3	5.9	2.8	9.3	2.2
女性	604	44.2	36.1	1.2	3.5	5.8	0.2	5.5	2.6	2.3	6.0	2.6
10～20歳代	229	45.0	34.5	1.3	3.5	2.6	0.4	6.6	4.8	0.4	6.1	1.7
30歳代	271	38.4	41.3	2.2	4.4	3.7	0.0	5.5	4.1	2.2	5.9	4.1
40歳代	236	36.0	26.3	3.0	6.4	8.5	0.4	10.6	3.8	1.3	9.7	1.3
50歳代	303	35.0	21.5	1.0	5.6	12.5	1.0	9.2	4.3	5.9	7.6	2.6
60歳代	71	22.5	19.7	2.8	5.6	21.1	0.0	19.7	2.8	0.0	9.9	1.4

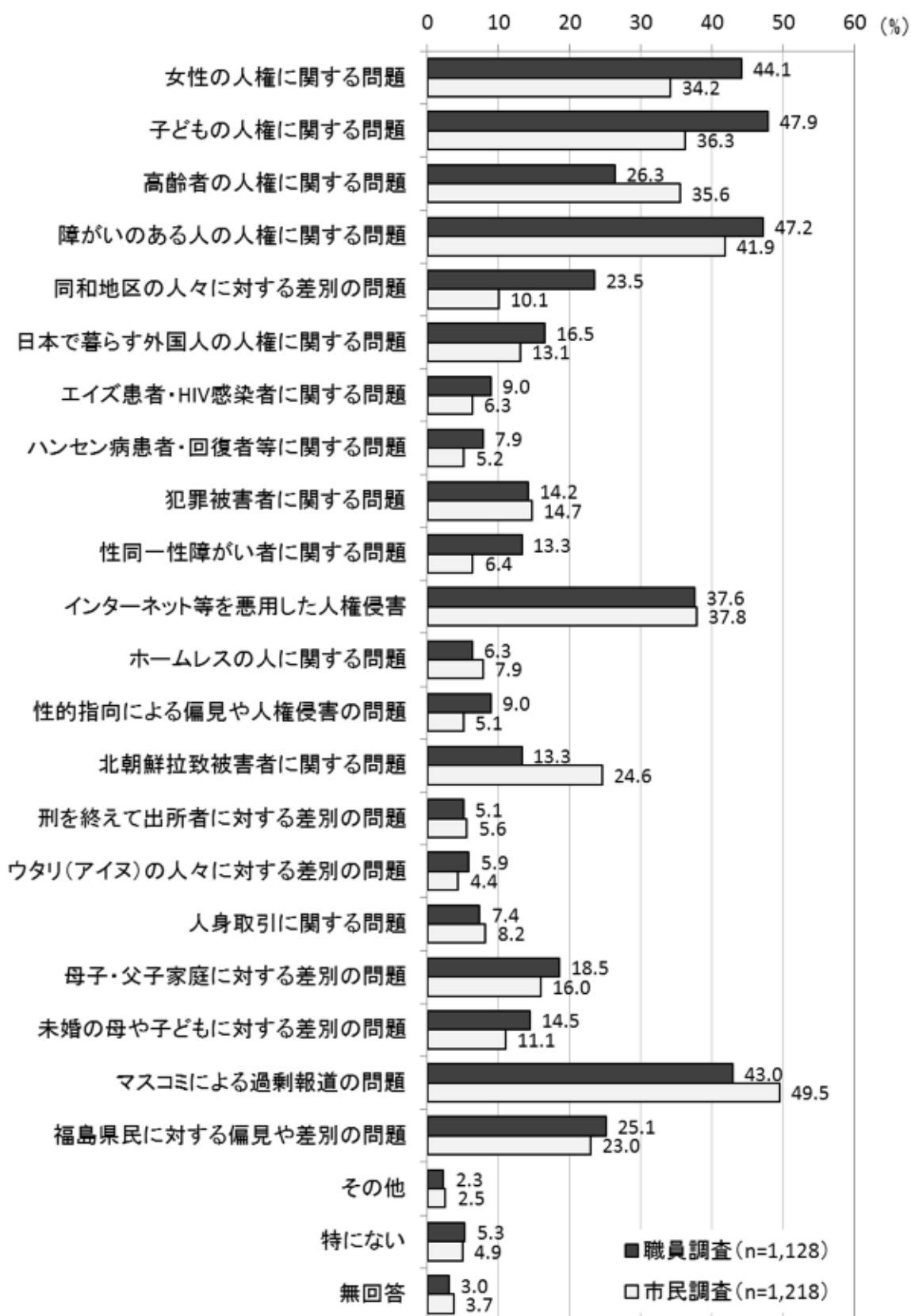
人権を侵害されたときの対処別にみると、「友達、同僚、上司、教師に相談した」、「家族、親戚に相談した」、「警察に相談した」、「相手に抗議するなど自分で解決した」と回答した人については、今後、人権が侵害された場合の対処としても、同じ方法を取る人が最も多くなっています。

図表 4-3 侵害されたときの対処別×今後、人権が侵害された場合の対処

	(n)	友達、同僚、上司、教師に相談する	家族、親戚に相談する	警察に相談する	弁護士に相談する	公的機関に相談する	民間団体に相談する	相手に抗議するなど自分で解決する	何もしない	その他	わからない	不明・無回答
友達、同僚、上司、教師に相談した	242	61.2	29.8	3.3	7.0	6.2	0.0	9.1	2.9	2.5	5.8	0.0
家族、親戚に相談した	156	40.4	51.3	4.5	3.2	6.4	0.6	9.0	2.6	3.2	5.1	0.0
警察に相談した	15	40.0	40.0	40.0	26.7	20.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
弁護士に相談した	12	16.7	41.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0
公的機関に相談した	16	25.0	18.8	0.0	6.3	18.8	6.3	6.3	6.3	6.3	12.5	6.3
民間団体に相談した	10	10.0	30.0	0.0	10.0	20.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0
相手に抗議するなど自分で解決した	70	25.7	27.1	0.0	8.6	8.6	2.9	30.0	0.0	5.7	5.7	0.0
何もしなかった	144	20.1	20.1	4.2	3.5	5.6	1.4	10.4	18.8	6.9	18.8	0.7
その他	33	15.2	15.2	3.0	6.1	15.2	0.0	12.1	3.0	15.2	18.2	3.0
おぼえていない	20	40.0	20.0	0.0	0.0	5.0	0.0	10.0	0.0	0.0	40.0	0.0

問 5 日本の社会には、人権に関わるいろいろな問題がありますが、あなたが関心を持っているのはどのようなことですか。【複数回答】

図表 5-1 関心のある人権問題



関心のある人権問題として、「子どもの人権に関する問題」が 47.9%と最も多く、次いで「障がいのある人の人権に関する問題」が 47.2%、「女性の人権に関する問題」が 44.1%となっています。市民調査と比較すると、「女性の人権に関する問題」、「子どもの人権に関する問題」、「障がいのある人の人権に関する問題」、「同和地区の人々に対する差別の問題」、「性同一性障がい者に関する問題」については、回答した人の割合が 5.0 ポイント以上高い結果となりました。一方、「高齢者の人権に関する問題」、「北朝鮮拉致被害者に関する問題」、「マスコミによる過剰報道の問題」については、回答した人の割合が 5.0 ポイント以上低い結果となりました。

性別にみると、男性では「マスコミによる過剰報道の問題」が 47.3%、女性では「女性の人権に関する問題」が 59.9%と最も多くなっています。続いて、年齢別にみると、10～20 歳代では「女性の人権に関する問題」、30 歳代と 50 歳代では「障がいのある人の人権に関する問題」、40 歳代では「子どもの人権に関する問題」、60 歳代では「マスコミによる過剰報道の問題」が最も多くなっています。年齢によって関心のある人権問題に違いがあることが伺えました。

図表 5-2 性別・年齢別×関心のある人権問題

	(n)	女性の人権に関する問題	子どもの人権に関する問題	高齢者の人権に関する問題	障がいのある人の人権に関する問題	差別の問題 同和地区の人々に対する	日本で暮らす外国人の人権に関する問題	エイズ患者・HIV感染者に関する問題	ハンセン病患者・回復者等に関する問題	犯罪被害者に関する問題	性同一性障がい者に関する問題	インターネット等を悪用した人権侵害	ホームレスの人に関する問題
全体	1,128	44.1	47.9	26.3	47.2	23.5	16.5	9.0	7.9	14.2	13.3	37.6	6.3
男性	505	25.1	37.6	19.4	38.2	25.1	14.7	7.1	6.1	15.0	8.5	38.6	5.7
女性	604	59.9	56.6	32.5	55.3	21.4	18.0	10.4	9.1	13.2	17.4	36.9	6.6
10～20 歳代	229	44.1	41.5	20.1	40.2	17.5	14.4	7.4	1.7	13.1	14.4	36.2	6.6
30 歳代	271	42.8	47.6	17.3	48.0	21.4	15.1	9.2	8.5	13.7	14.0	33.9	3.7
40 歳代	236	43.2	49.2	25.0	47.5	22.5	17.8	7.6	7.6	12.3	12.3	36.0	4.7
50 歳代	303	45.9	51.5	35.6	52.8	28.7	18.8	11.6	11.6	16.5	13.5	44.2	9.6
60 歳代	71	46.5	52.1	47.9	47.9	28.2	14.1	5.6	8.5	14.1	9.9	36.6	5.6

	(n)	性的指向による偏見や人権侵害の問題	北朝鮮拉致被害者に関する問題	刑を終えて出所者に対する差別の問題	ウタリ(アイヌ)の人々に対する差別の問題	人身取引に関する問題	母子・父子家庭に対する差別の問題	未婚の母や子どもに対する差別の問題	マスコミによる過剰報道の問題	福島県民に対する偏見や差別の問題	その他	特にない	不明・無回答
全体	1,128	9.0	13.3	5.1	5.9	7.4	18.5	14.5	43.0	25.1	2.3	5.3	3.0
男性	505	7.7	14.1	6.9	5.5	6.1	14.9	9.5	47.3	21.0	2.6	8.9	2.6
女性	604	9.9	12.1	3.5	5.8	8.1	21.5	18.7	39.4	28.6	1.8	2.5	2.8
10～20 歳代	229	10.9	9.2	2.6	1.7	3.1	17.5	14.8	40.6	16.6	1.3	5.2	1.7
30 歳代	271	8.9	10.3	4.4	4.8	6.6	20.3	17.0	38.4	22.5	1.1	7.0	4.1
40 歳代	236	6.4	9.7	2.5	5.1	10.2	15.3	11.0	40.3	29.2	3.0	6.4	2.5
50 歳代	303	9.9	18.2	7.9	9.6	9.2	18.5	14.2	48.5	30.0	3.3	3.0	2.6
60 歳代	71	7.0	23.9	11.3	7.0	4.2	25.4	16.9	54.9	29.6	1.4	5.6	1.4

講演会参加状況別にみると、参加した人では「障がいのある人の人権に関する問題」、参加したことがない人では「マスコミによる過剰報道の問題」が最も多くなっています。「特にない」を除くすべての項目で、参加した人の方が回答割合が高く、関心の高さが伺える結果となっています。

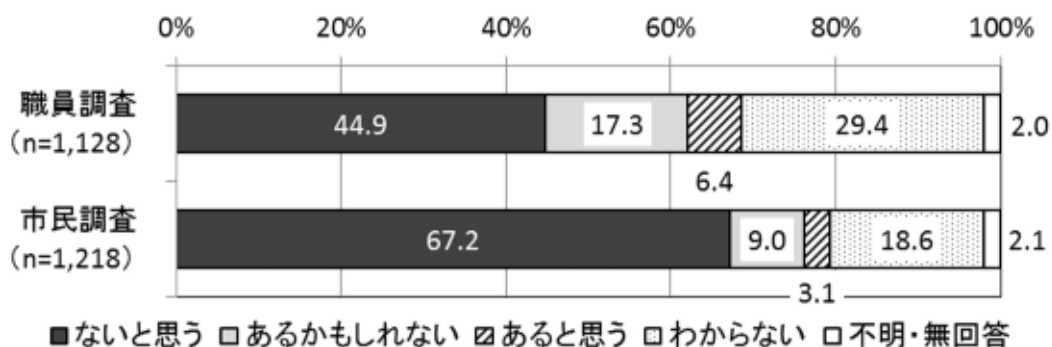
図表 5-3 講演会参加状況別×関心のある人権問題

	(n)	女性の人権に関する問題	子どもの人権に関する問題	高齢者の人権に関する問題	障がいのある人の人権に関する問題	差別の問題 同和地区の人々に対する	日本で暮らす外国人の人権に関する問題	エイズ患者・HIV感染者に関する問題	ハンセン病患者・回復者等に関する問題	犯罪被害者に関する問題	性同一性障がい者に関する問題	インターネット等を悪用した人権侵害	ホームレスの人に関する問題
人権講演会等に参加した	664	53.3	57.7	31.6	58.3	30.3	23.2	10.1	10.7	15.7	16.3	44.1	8.3
人権講演会等に参加したことがない	434	31.8	34.6	19.6	31.8	13.1	7.1	7.4	3.9	12.4	9.0	28.6	3.5

	(n)	性的指向による偏見や人権侵害の問題	北朝鮮拉致被害者に関する問題	刑を終えて出所者に対する差別の問題	ウタリ(アイヌ)の人々に対する差別の問題	人身取引に関する問題	母子・父子家庭に対する差別の問題	未婚の母や子どもに対する差別の問題	マスコミによる過剰報道の問題	福島県民に対する偏見や差別の問題	その他	特にない	不明・無回答
人権講演会等に参加した	664	11.0	17.0	6.8	8.1	9.3	21.7	17.6	45.8	30.0	2.3	2.0	1.2
人権講演会等に参加したことがない	434	5.8	8.1	2.8	2.3	4.6	14.3	10.1	38.5	18.7	1.8	10.6	4.6

問6 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがありますか。

図表 6-1 他人の人権を侵害した経験の有無



他人の人権を侵害した経験について、「ないと思う」が 44.9%と最も多く、次いで「わからない」が 29.4%、「あるかもしれない」が 17.3%となっています。市民調査と比較すると、「ないと思う」と回答した人の割合が 22.3 ポイント低い結果となりました。

性別にみると、男女ともに「ないと思う」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 5.0 ポイントの差が見られました。続いて、年齢別にみると、いずれの年代も「ないと思う」が最も多くなっています。

図表 6-2 性別・年齢別×他人の人権を侵害した経験の有無

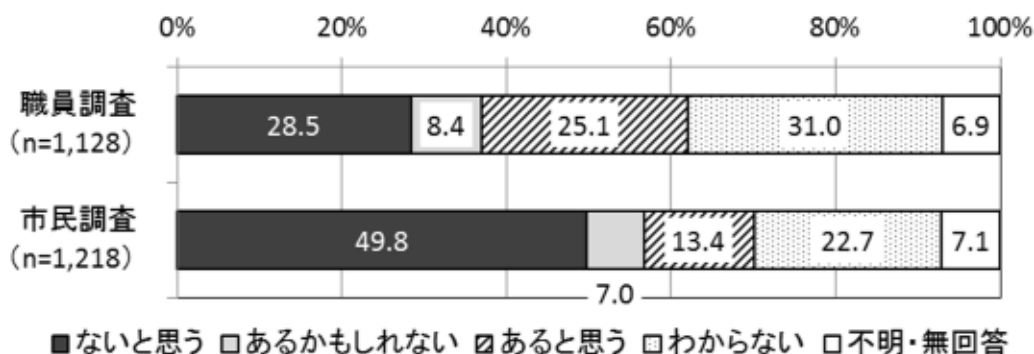
	(n)	ないと思う	あるかもしれない	あると思う	わからない	不明・無回答
全体	1,128	44.9	17.3	6.4	29.4	2.0
男性	505	47.7	14.5	8.1	27.9	1.8
女性	604	42.7	19.9	5.0	31.0	1.5
10～20 歳代	229	43.2	14.8	3.9	37.1	0.9
30 歳代	271	48.0	13.3	6.3	30.6	1.8
40 歳代	236	44.5	18.2	9.3	27.5	0.4
50 歳代	303	42.6	21.8	6.6	27.1	2.0
60 歳代	71	52.1	19.7	2.8	19.7	5.6

問6-1 どのような人権侵害でしたか。 記述者数;188 人

- 悪口, 陰口, うわさ, 差別的発言など(51 件)
- 自分では気づいていないが, 人権侵害したことがあるかもしれない(45 件)
- いじめ(30 件)
- 人を傷つける言動(27 件)
- 差別, 偏見(20 件)
- パワハラ(5 件) ▪ 暴力, 虐待(3 件)
- セクハラ(1 件) ▪ アルハラ(1 件) ▪ その他(11 件)

問 7 あなたのまわりで、今までに、人権侵害が発生したことがありますか。

図表 7-1 人権侵害が発生した経験



人権侵害が発生した経験について、「わからない」が 31.0%と最も多く、次いで「ないと思う」が 28.5%、「あると思う」が 25.1%となっています。市民調査と比較すると、「ないと思う」と回答した人の割合が 21.3 ポイント低くなった一方、「あると思う」あるいは「わからない」が 5.0 ポイント以上高い結果となりました。

性別にみると、男性では「ないと思う」が 33.9%、女性では「わからない」が 32.9%で最も多くなっています。続いて、年齢別にみると、10～20 歳代と 40 歳代では「わからない」、30 歳代と 60 歳代では「ないと思う」、50 歳代では「あると思う」が最も多くなっています。

図表 7-2 性別・年齢別×人権侵害が発生した経験

	(n)	ないと思う	あるかもしれない	あると思う	わからない	不明・無回答
全体	1,128	28.5	8.4	25.1	31.0	6.9
男性	505	33.9	7.1	24.4	29.3	5.3
女性	604	24.5	9.6	25.5	32.9	7.5
10～20 歳代	229	33.2	10.0	17.0	34.1	5.7
30 歳代	271	34.3	7.4	21.8	30.6	5.9
40 歳代	236	25.0	9.7	26.7	31.8	6.8
50 歳代	303	23.4	6.6	32.0	31.4	6.6
60 歳代	71	29.6	11.3	25.4	22.5	11.3

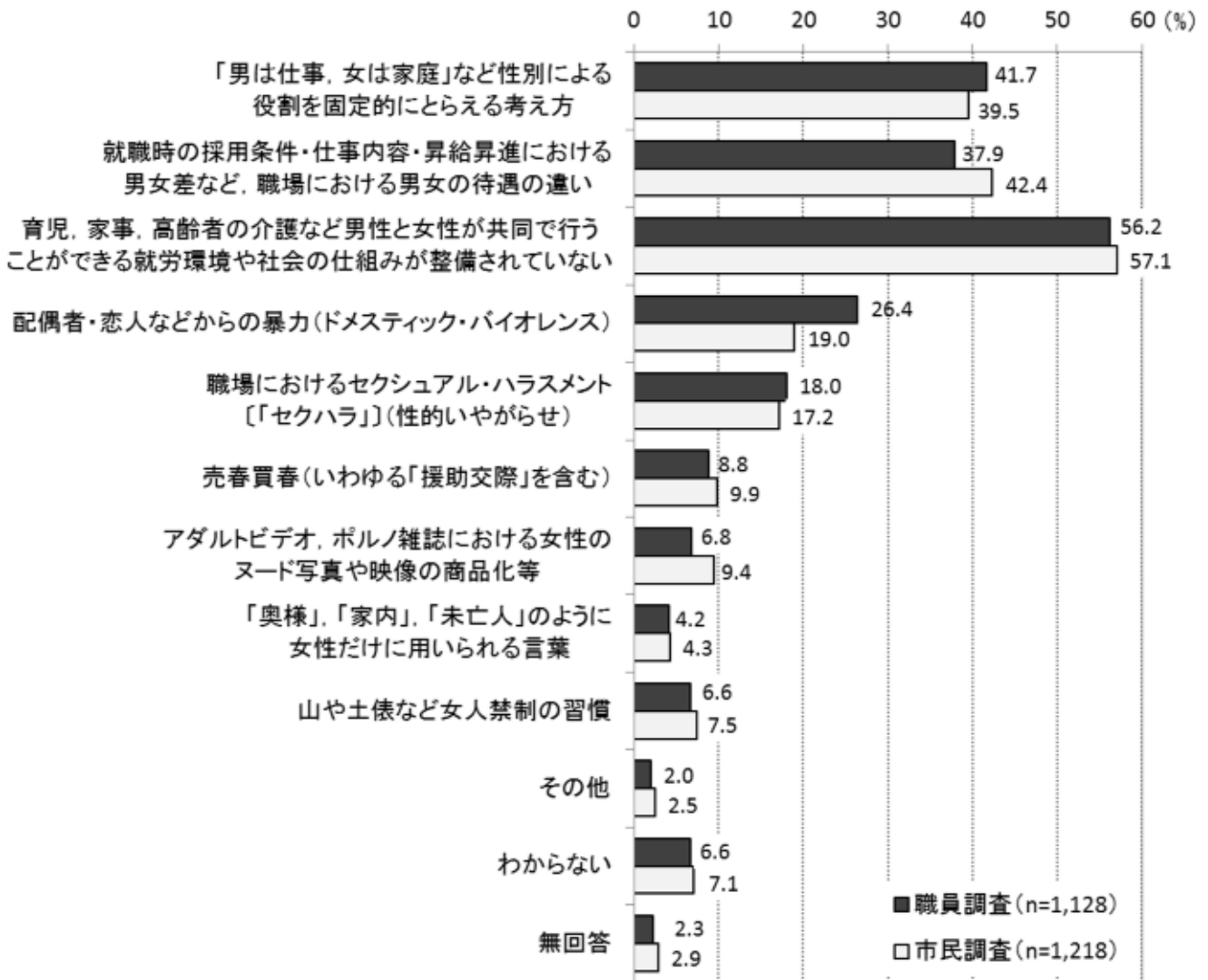
問 7-1 どのような人権侵害でしたか。 記述者数;188 人

- 差別, 偏見 (76 件) ▪ いじめ (76 件) ▪ パワハラ (64 件)
- 悪口, 陰口, うわさ, 差別的発言など (35 件)
- 暴力, 虐待, 体罰 (24 件) ▪ 人を傷つける言動 (22 件)
- セクハラ (20 件) ▪ プライバシー (10 件)
- 業務上の不当な扱い (7 件)
- 自分では気づいていないが, 人権侵害があったかもしれない (2 件)
- その他 (15 件)

3. 女性の人権について

問 8 あなたは、女性に関することがらで、人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるのはどのようなことですか。【複数回答】

図表 8-1 女性の人権に関する問題点



女性の人権に関する問題点として、「育児や家事, 高齢者の介護など男性と女性が共同で行うことができる就労環境や社会の仕組みが整備されていない」が 56.2%と最も多く、次いで「『男は仕事, 女は家庭』など性別による役割を固定的にとらえる考え方」が 41.7%, 「就職時の採用条件・仕事内容・昇給昇進における男女差など, 職場における男女の待遇の違い」が 37.9%となっています。市民調査と比較すると, 回答の割合が高かった上位 3 つの項目に違いは見られませんでした。「配偶者・恋人などからの暴力(ドメスティック・バイオレンス)」については, 回答した人の割合が 7.4 ポイント高い結果となりました。

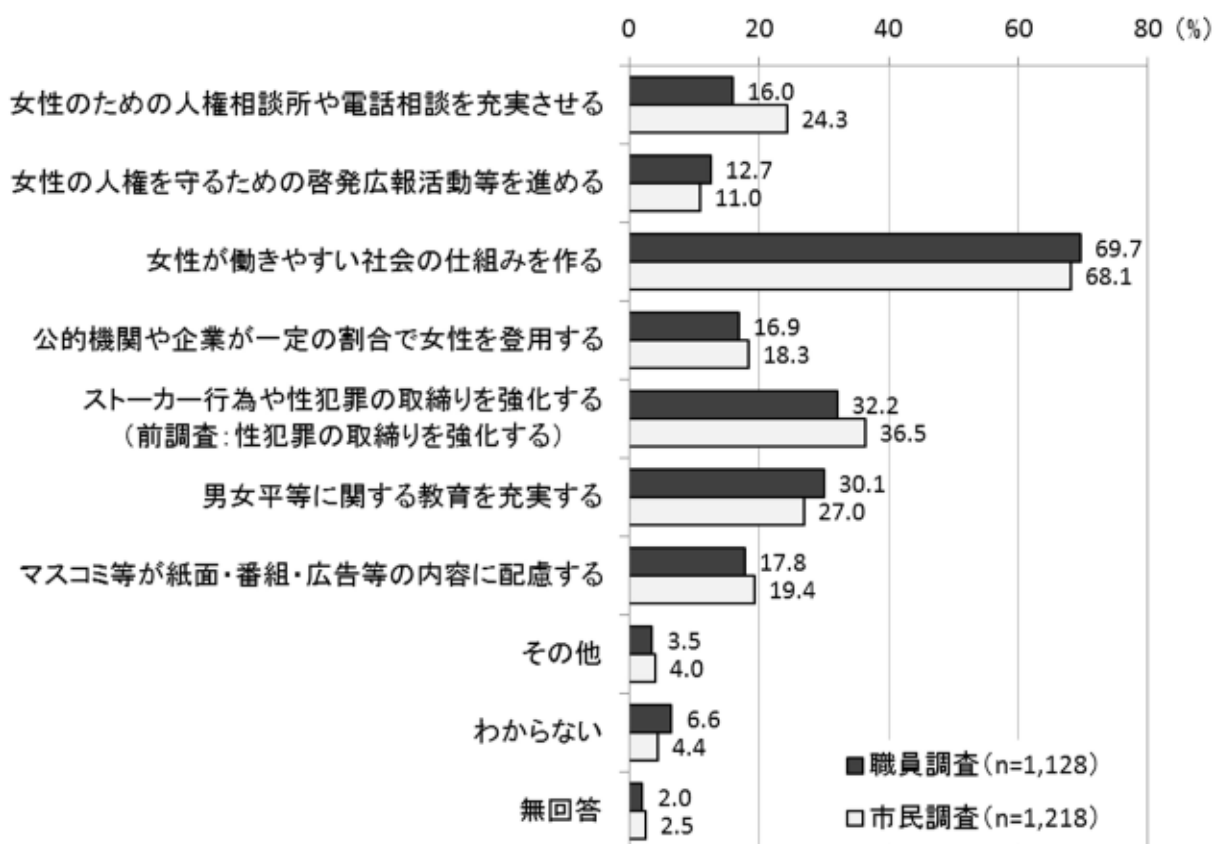
性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても、「育児や家事、高齢者の介護など男性と女性が共同で行うことができる就労環境や社会の仕組みが整備されていない」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 19.1 ポイントの差が見られました。

図表 8-2 性別・年齢別 × 女性の人権に関する問題点

	(n)	性別役割を固定的にとらえる考え方	職場における男女の待遇の違い	共同で行う仕組み等が未整備	配偶者・恋人などからの暴力	職場における「セクハラ」	売春買春（援助交際）を含む	女性のヌード写真等の商品化	女性だけに用いられる言葉	女人禁制の習慣	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	41.7	37.9	56.2	26.4	18.0	8.8	6.8	4.2	6.6	2.0	6.6	2.3
男性	505	35.2	34.3	46.3	22.6	17.4	7.7	3.8	4.2	6.5	2.8	12.1	2.8
女性	604	47.0	41.6	65.4	29.8	18.7	9.8	8.9	4.0	6.8	1.5	2.3	1.0
10～20 歳代	229	40.6	40.2	52.0	24.0	23.1	7.0	2.2	3.9	4.4	3.1	6.1	0.9
30 歳代	271	42.4	35.8	57.9	26.6	18.8	6.3	3.3	3.3	5.9	2.6	7.0	1.5
40 歳代	236	38.1	33.5	59.7	28.0	19.1	7.2	6.4	5.1	5.9	1.3	8.5	1.3
50 歳代	303	44.9	41.9	56.4	26.7	14.9	13.5	11.9	3.3	8.6	2.0	5.6	2.3
60 歳代	71	43.7	42.3	59.2	26.8	8.5	9.9	11.3	7.0	11.3	0.0	7.0	4.2

問9 あなたは、女性の人権を守るのに特に必要なことはどのようなことだと思われますか。
【複数回答】

図表 9-1 女性の人権を守るために特に必要なこと



女性の人権を守るために特に必要なこととして、「女性が働きやすい社会の仕組みを作る」が69.7%と最も多く、次いで「ストーカー行為や性犯罪の取締りを強化する」が32.2%、「男女平等に関する教育を充実する」が30.1%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位3つの項目と順位に違いは見られず、市民調査と同様に「女性が働きやすい社会の仕組みを作る」が65%以上と回答した人の割合が高くなっています。「女性のための人権相談所や電話相談を充実させる」と回答した人の割合については、8.3ポイント低い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても、「女性が働きやすい社会の仕組みを作る」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 19.4 ポイントの差が見られました。また、40 歳代では他の年齢に比べて 5.0 ポイント以上低い結果となりました。

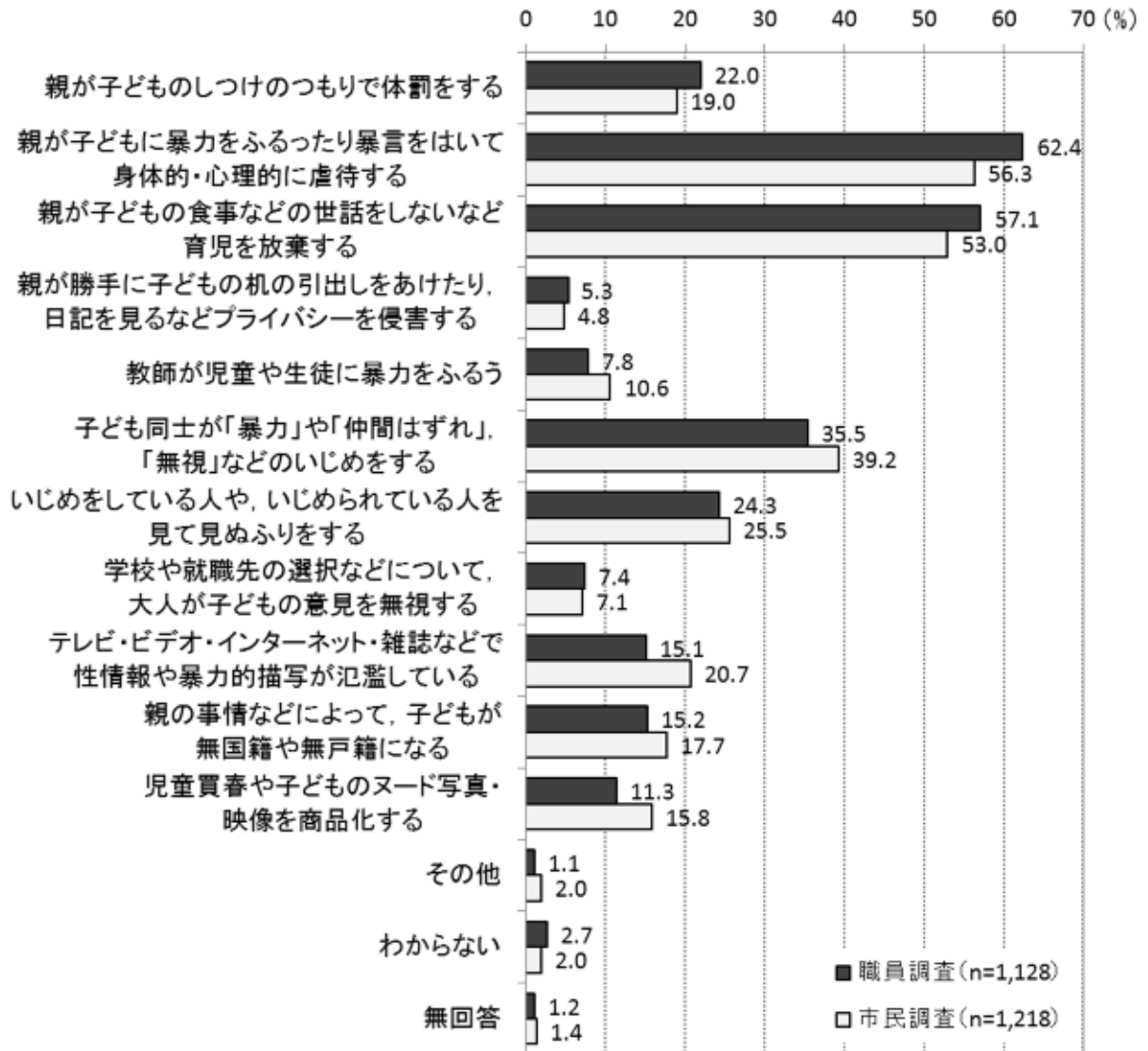
図表 9-2 性別・年齢別×女性の人権を守るために特に必要なこと

	(n)	女性のための人権相談所や電話相談を充実させる	女性の人権を守るための啓発広報活動等を進める	女性が働きやすい社会の仕組みを作る	公的機関や企業が一定の割合で女性を登用する	ストーカー行為や性犯罪の取締りを強化する	男女平等に関する教育を充実する	マスコミ等が紙面・番組・広告等の内容に配慮する	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	16.0	12.7	69.7	16.9	32.2	30.1	17.8	3.5	6.6	2.0
男性	505	16.6	11.9	59.6	12.9	28.1	27.7	14.3	3.0	10.5	2.2
女性	604	15.4	13.1	79.0	20.4	35.8	32.3	20.9	4.1	3.5	1.0
10～20 歳代	229	15.3	7.4	71.6	13.5	33.6	33.2	14.8	2.2	6.6	0.9
30 歳代	271	10.3	11.1	72.0	17.3	35.1	28.4	14.4	2.2	6.6	1.1
40 歳代	236	15.7	14.4	64.4	20.3	27.5	31.4	20.3	4.2	8.9	1.3
50 歳代	303	20.8	15.2	71.9	16.8	32.3	26.1	21.5	5.9	5.3	2.0
60 歳代	71	18.3	16.9	73.2	15.5	32.4	42.3	18.3	1.4	5.6	2.8

4. 子どもの人権について

問 10 あなたは、子どもに関することから、人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるのはどのようなことですか。【複数回答】

図表 10-1 子どもの人権に関する問題点



子どもの人権に関する問題点として、「親が子どもに暴力をふるったり暴言をはいて身体的・心理的に虐待する」が 62.4%と最も多く、次いで「親が子どもの食事などの世話をしないなど育児を放棄する」が 57.1%、「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをする」が 35.5%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位 3 つの項目と順位に違いは見られませんでした。ただし、「親が子どもに暴力をふるったり暴言をはいて身体的・心理的に虐待する」と回答した人の割合については、6.1 ポイント高い結果となりました。一方、「テレビ・ビデオ・インターネット・雑誌などで性情報や暴力的描写が氾濫している」は 5.6 ポイント低い結果となりました。

性別にみると、男性では「親が子どもの食事などの世話をしないなど育児を放棄する」が 56.2%、女性では「親が子どもに暴力をふるったり暴言をはいて身体的・心理的に虐待する」が 68.0%と最も多くなっています。年齢別にみると、10～20 歳代では「親が子どもの食事などの世話をしないなど育児を放棄する」、30 歳代以上では「親が子どもに暴力をふるったり暴言をはいて身体的・心理的に虐待する」が最も多くなっています。男女ともに、また、いずれの年齢においても、子どもの人権に関する問題点として“虐待”を考える人が多くなっています。

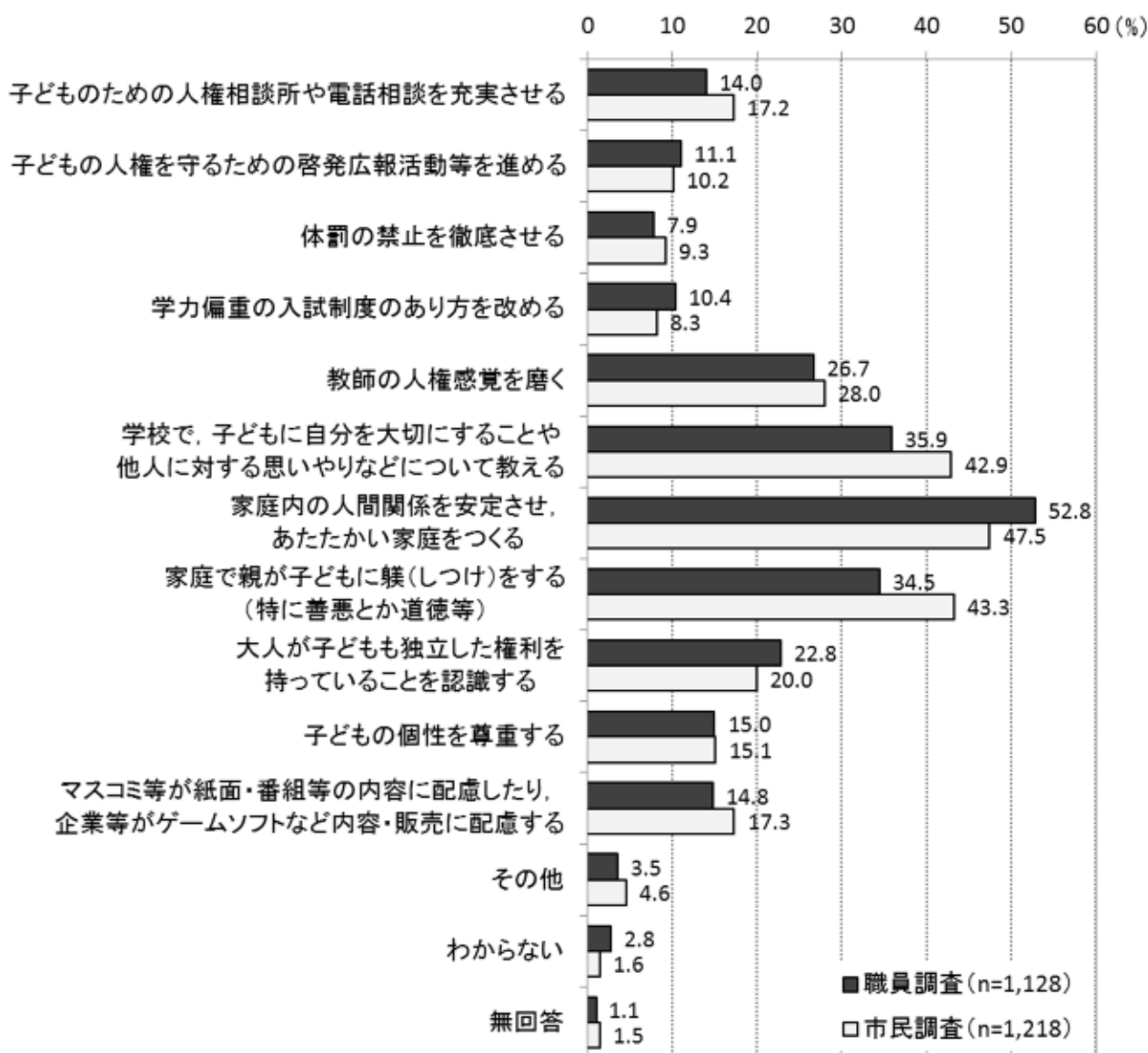
図表 10-2 性別・年齢別×子どもの人権に関する問題点

	(n)	親が子どものしつけのつもりで体罰をする	親が子どもに暴力をふるったり暴言をはいて身体的・心理的に虐待する	親が子どもの食事などの世話をしないなど育児を放棄する	親が子どもの机の引出しをあげたり、日記を見るなどプライバシーを侵害する	教師が児童や生徒に暴力をふるう	子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをする	いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする	子どもが「無視」や「仲間はずれ」	学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視する	テレビ・ビデオ・インターネット・雑誌などで性情報や暴力的描写が氾濫している	親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になる	児童買春や子どものヌード写真・映像を商品化する
全体	1,128	22.0	62.4	57.1	5.3	7.8	35.5	24.3	7.4	15.1	15.2	11.3	
男性	505	20.0	56.0	56.2	4.6	5.3	35.2	26.9	7.7	12.9	14.3	9.3	
女性	604	23.3	68.0	58.1	6.0	10.1	36.3	22.7	7.5	16.9	16.2	13.1	
10～20 歳代	229	21.0	59.8	60.7	9.2	7.4	32.3	21.8	14.4	10.0	17.0	7.4	
30 歳代	271	20.3	63.5	58.3	5.2	7.7	33.9	26.9	6.6	15.1	11.1	12.2	
40 歳代	236	17.8	58.9	58.1	2.5	8.1	37.3	18.6	4.2	19.5	16.5	13.6	
50 歳代	303	27.1	65.7	54.1	4.3	7.3	35.0	27.7	6.9	15.2	17.5	11.2	
60 歳代	71	23.9	69.0	53.5	7.0	12.7	50.7	29.6	2.8	18.3	11.3	14.1	

	(n)	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	1.1	2.7	1.2
男性	505	1.6	4.6	0.6
女性	604	0.5	1.2	1.0
10～20 歳代	229	0.9	1.7	0.4
30 歳代	271	0.7	3.0	1.1
40 歳代	236	0.8	5.1	0.8
50 歳代	303	1.3	1.7	0.7
60 歳代	71	1.4	1.4	0.0

問 11 あなたは、子どもの人権を守るのに特に必要なことはどのようなことだと思いますか。
【複数回答】

図表 11-1 子どもの人権を守るために特に必要なこと



子どもの人権を守るために特に必要なこととして、「家庭内の人間関係を安定させ、あたたかい家庭をつくる」が 52.8%と最も多く、次いで「学校で、子どもに自分を大切にすることや他人に対する思いやりなどについて教える」が 35.9%、「家庭で親が子どもに躰(しつけ)をする(特に善悪とか道德等)」が 34.5%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位 3 つの項目に違いは見られませんでした。ただし、回答した人の割合については、「家庭内の人間関係を安定させ、あたたかい家庭をつくる」では 5.0 ポイント以上高くなった一方、「学校で、子どもに自分を大切にすることや他人に対する思いやりなどについて教える」、「家庭で親が子どもに躰(しつけ)をする(特に善意とか道德等)」では 5.0 ポイント以上低い結果となりました。

性別にみると、男女ともに「家庭内の人間関係を安定させ、あたたかい家庭をつくる」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 7.6 ポイントの差が見られました。続いて、年齢別にみると、10～20 歳代、30 歳代、40 歳代と 50 歳代では「家庭内の人間関係を安定させ、あたたかい家庭をつくる」、60 歳代では「学校で、子どもに自分を大切にすることや他人に対する思いやりなどについて教える」が最も多くなっています。

図表 11-2 性別・年齢別×子どもの人権を守るために特に必要なこと

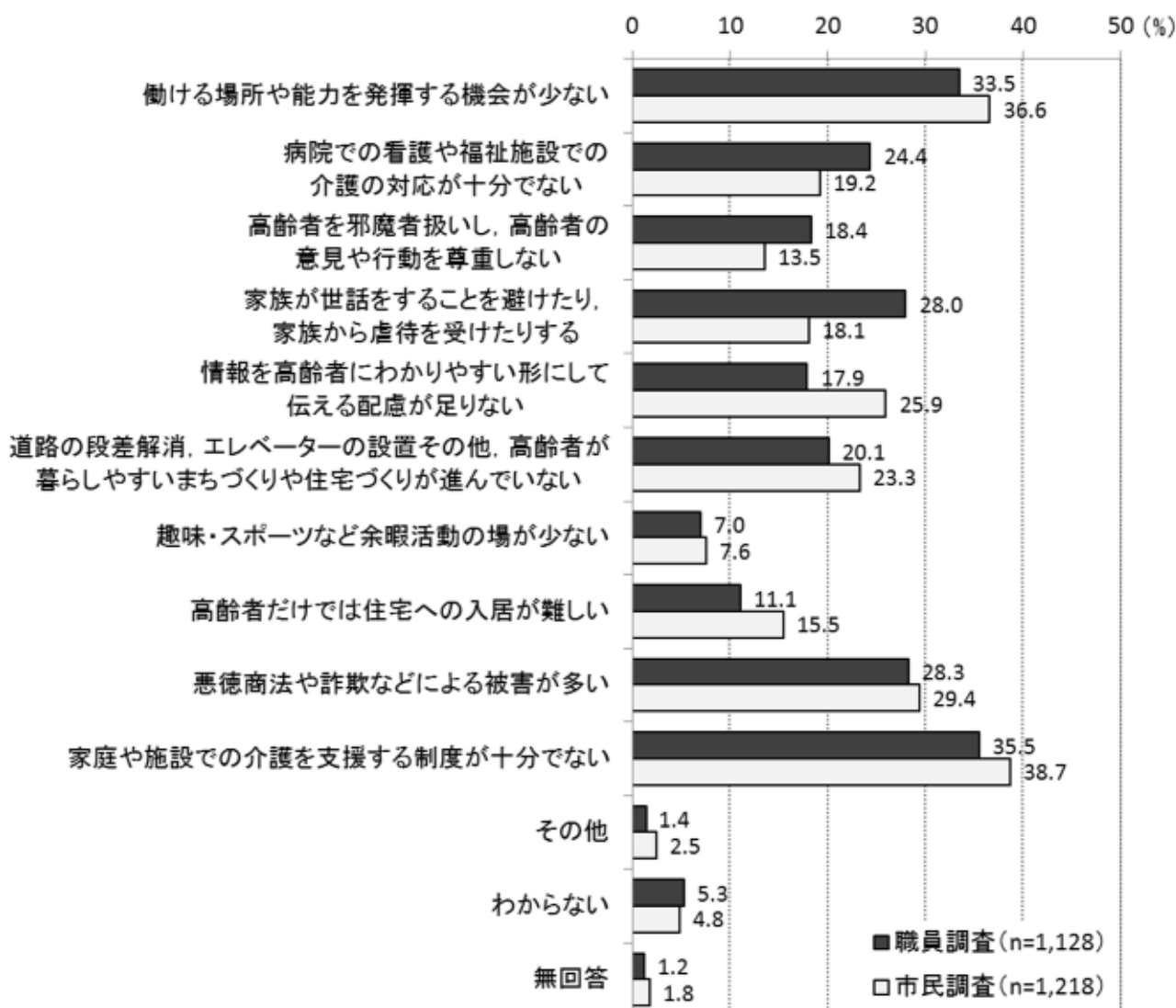
	(n)	子どものための人権相談所や電話相談を充実させる	子どもの人権を守るための啓発広報活動等を進める	体罰の禁止を徹底させる	学力偏重の入試制度のあり方を改める	教師の人権感覚を磨く	学校で、子どもに自分を大切にすることや他人に対する思いやりなどについて教える	家庭内の人間関係を安定させ、あたたかい家庭をつくる	家庭で親が子どもに躰(しつけ)をする (特に善悪とか道徳等)	大人が子どもも独立した権利を持っていることを認識する	子どもの個性を尊重する	マスコミ等が紙面・番組等の内容、企業等がゲームソフトなど内容・販売に配慮する
全体	1,128	14.0	11.1	7.9	10.4	26.7	35.9	52.8	34.5	22.8	15.0	14.8
男性	505	14.9	10.9	6.1	11.9	24.6	34.7	48.7	40.2	15.6	15.0	10.3
女性	604	13.2	11.6	9.4	9.1	28.8	37.4	56.3	30.0	29.1	15.2	18.7
10～20 歳代	229	15.3	7.9	8.3	5.2	27.9	40.6	56.8	35.8	22.3	18.8	9.2
30 歳代	271	11.8	10.7	7.0	10.0	24.0	37.6	61.6	33.9	21.8	15.9	14.4
40 歳代	236	10.6	10.6	4.2	9.7	28.0	29.7	45.8	34.3	28.8	13.6	14.0
50 歳代	303	16.8	14.5	10.6	13.9	26.1	34.0	50.2	33.3	21.1	11.6	19.8
60 歳代	71	18.3	12.7	11.3	15.5	33.8	46.5	43.7	36.6	19.7	19.7	18.3

	(n)	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	3.5	2.8	1.1
男性	505	2.8	4.8	0.4
女性	604	3.8	1.3	1.0
10～20 歳代	229	1.3	1.7	0.4
30 歳代	271	3.3	2.2	0.7
40 歳代	236	5.5	5.5	0.8
50 歳代	303	3.6	2.3	1.0
60 歳代	71	1.4	2.8	0.0

5. 高齢者の人権について

問 12 あなたは、高齢者に関することから、人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるのはどのようなことですか。【複数回答】

図表 12-1 高齢者の人権に関する問題点



高齢者の人権に関する問題点として、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が 35.5%、次いで「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」が 33.5%、「悪徳商法や詐欺などによる被害が多い」が 28.3%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位 3 つの項目と順位に違いは見られませんでした。「病院での看護や福祉施設での介護の対応が十分でない」、「家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりする」については、5.0 ポイント以上高かった一方、「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りない」では 5.0 ポイント以上低い結果となりました。

性別にみると、男性では「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」が 30.3%、女性では「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が 42.7%と最も多くなっています。続いて、年齢別にみると、10～20 歳代では「家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりする」、30 歳代と 40 歳代では「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」、50 歳代と 60 歳代では「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が最も多くなっています。性別や年齢によって、高齢者の人権に関する問題点についての考えに違いが見られました。

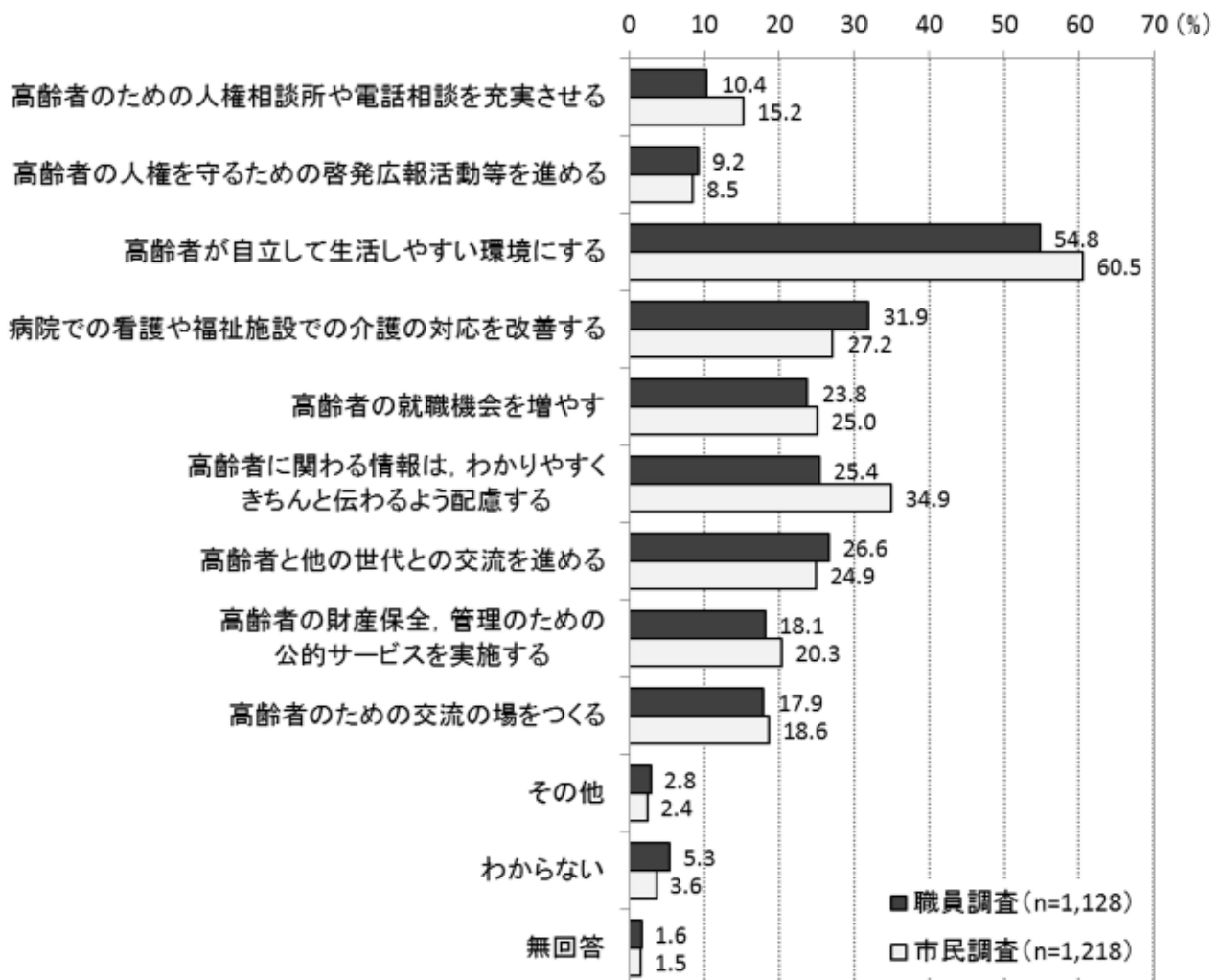
図表 12-2 性別・年齢別×高齢者の人権に関する問題点

	(n)	働ける場所や能力を発揮する機会が少ない	病院での看護や福祉施設での介護の対応が十分でない	高齢者を邪魔者扱いし、高齢者の意見や行動を尊重しない	家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりする	情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りない	道路の段差解消、エレベーターの設置、その他、高齢者が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない	趣味・スポーツなど余暇活動の場が少ない	高齢者だけでは住宅への入居が難しい	悪徳商法や詐欺などによる被害が多い	家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない
全体	1,128	33.5	24.4	18.4	28.0	17.9	20.1	7.0	11.1	28.3	35.5
男性	505	30.3	20.6	16.2	28.5	14.5	17.2	7.5	8.7	30.9	27.9
女性	604	36.4	27.8	20.2	27.8	21.0	22.0	6.6	13.2	26.5	42.7
10～20 歳代	229	27.1	21.4	22.3	33.6	15.3	17.5	5.2	10.9	31.4	23.1
30 歳代	271	35.4	19.6	19.2	28.4	14.4	20.3	8.5	11.4	26.9	34.7
40 歳代	236	35.2	23.3	11.9	29.2	25.0	14.4	5.9	13.1	28.4	34.3
50 歳代	303	34.3	30.7	19.5	21.5	16.8	23.4	7.6	9.6	27.4	45.5
60 歳代	71	39.4	29.6	22.5	33.8	23.9	29.6	7.0	9.9	31.0	46.5

	(n)	その他	わからない	無回答・不明
全体	1,128	1.4	5.3	1.2
男性	505	1.8	9.3	0.8
女性	604	1.2	2.0	1.0
10～20 歳代	229	0.4	6.6	0.9
30 歳代	271	1.8	6.6	1.1
40 歳代	236	1.3	6.4	1.3
50 歳代	303	2.3	3.3	0.7
60 歳代	71	0.0	1.4	0.0

問 13 あなたは、高齢者の人権を守るのに特に必要なことはどのようなことだと思いますか。
【複数回答】

図表 13-1 高齢者の人権を守るために特に必要なこと



高齢者の人権を守るために特に必要なこととして、「高齢者が自立して生活しやすい環境にする」が 54.8%と最も多く、次いで「病院での看護や福祉施設での介護の対応を改善する」が 31.9%、「高齢者和其他の世代との交流を進める」が 26.6%となっています。市民調査と比較すると、「高齢者に関わる情報は、わかりやすくきちんと伝わるように配慮する」と回答した人の割合が 9.5 ポイント低い結果となり、代わって、回答の割合が高かった上位 3 つに「高齢者和其他の世代との交流を進める」が入りました。また、「高齢者が自立して生活しやすい環境にする」と回答した人の割合についても、職員調査の方が 5.7 ポイント低い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「高齢者が自立して生活しやすい環境にする」が最も多くなりましたが、回答した人の割合は男女間で 14.0 ポイントの差が見られました。また、年代間でも回答した人の割合に 10.0 ポイント以上の差が見られました。

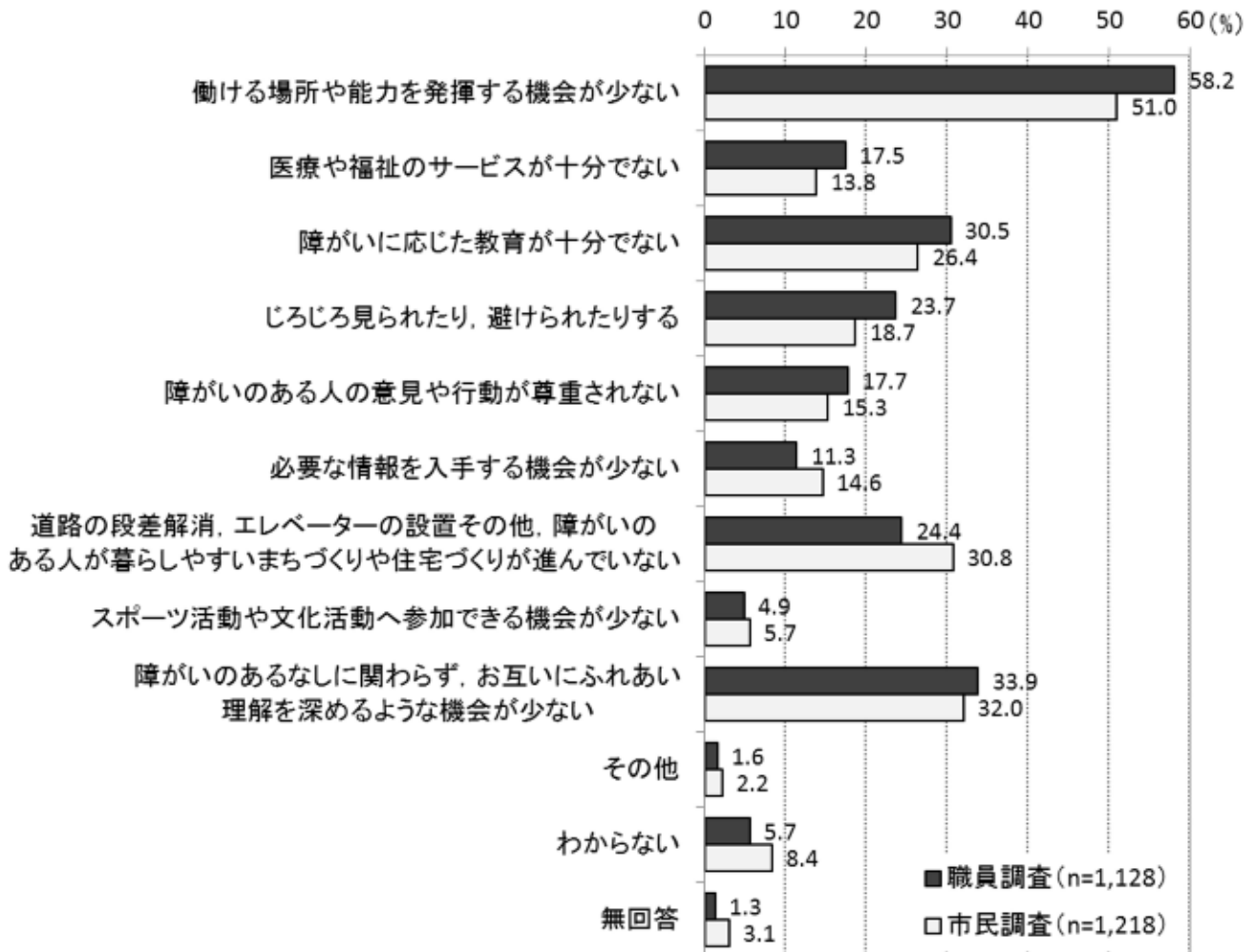
図表 13-2 性別・年齢別×高齢者の人権を守るために特に必要なこと

	(n)	高齢者のための人権相談所や電話相談を充実させる	高齢者の人権を守るための啓発広報活動等を進める	高齢者が自立して生活しやすい環境にする	病院での看護や福祉施設での介護の対応を改善する	高齢者の就職機会を増やす	高齢者に関する情報は、わかりやすくきちんと伝わるよう配慮する	高齢者と他の世代との交流を進める	高齢者の財産保全、管理のための公的サービスを実施する	高齢者のための交流の場をつくる	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	10.4	9.2	54.8	31.9	23.8	25.4	26.6	18.1	17.9	2.8	5.3	1.6
男性	505	13.1	10.7	47.3	24.0	24.0	20.8	27.7	16.2	15.4	1.4	8.9	1.8
女性	604	8.1	8.1	61.3	39.1	23.8	29.6	26.0	19.7	20.4	4.1	2.3	0.8
10～20 歳代	229	9.6	6.6	48.0	27.5	17.0	24.9	28.4	16.2	24.5	0.9	5.7	1.3
30 歳代	271	7.0	6.6	53.9	31.7	34.7	18.8	32.8	14.4	17.3	1.1	6.6	1.5
40 歳代	236	10.6	11.0	49.2	27.1	22.5	29.2	26.7	22.0	17.4	4.7	7.2	1.3
50 歳代	303	12.2	10.9	62.7	38.6	18.8	24.8	22.8	19.1	15.8	5.0	3.3	1.3
60 歳代	71	16.9	15.5	67.6	38.0	29.6	45.1	16.9	22.5	12.7	1.4	1.4	0.0

6. 障がいのある人の人権について

問 14 あなたは、障がいのある人に関することから、人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるのはどのようなことですか。【複数回答】

図表 14-1 障がいのある人の人権に関する問題点



障がいのある人の人権に関する問題点として、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」が 58.2%と最も多く、次いで「障がいのあるなしに関わらず、お互いにふれあい理解を深めるような機会が少ない」が 33.9%、「障がいに応じた教育が十分でない」が 30.5%となっています。市民調査と比較すると、「道路の段差解消、エレベーターの設置その他、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない」と回答した人の割合が 6.4 ポイント低い結果となり、代わって、「障がいに応じた教育が十分でない」が回答の割合が高かった上位 3 つに入りました。「じろじろ見られたり、避けられたりする」と回答した人の割合については、職員調査の方が 5.0 ポイント高い結果となりました。

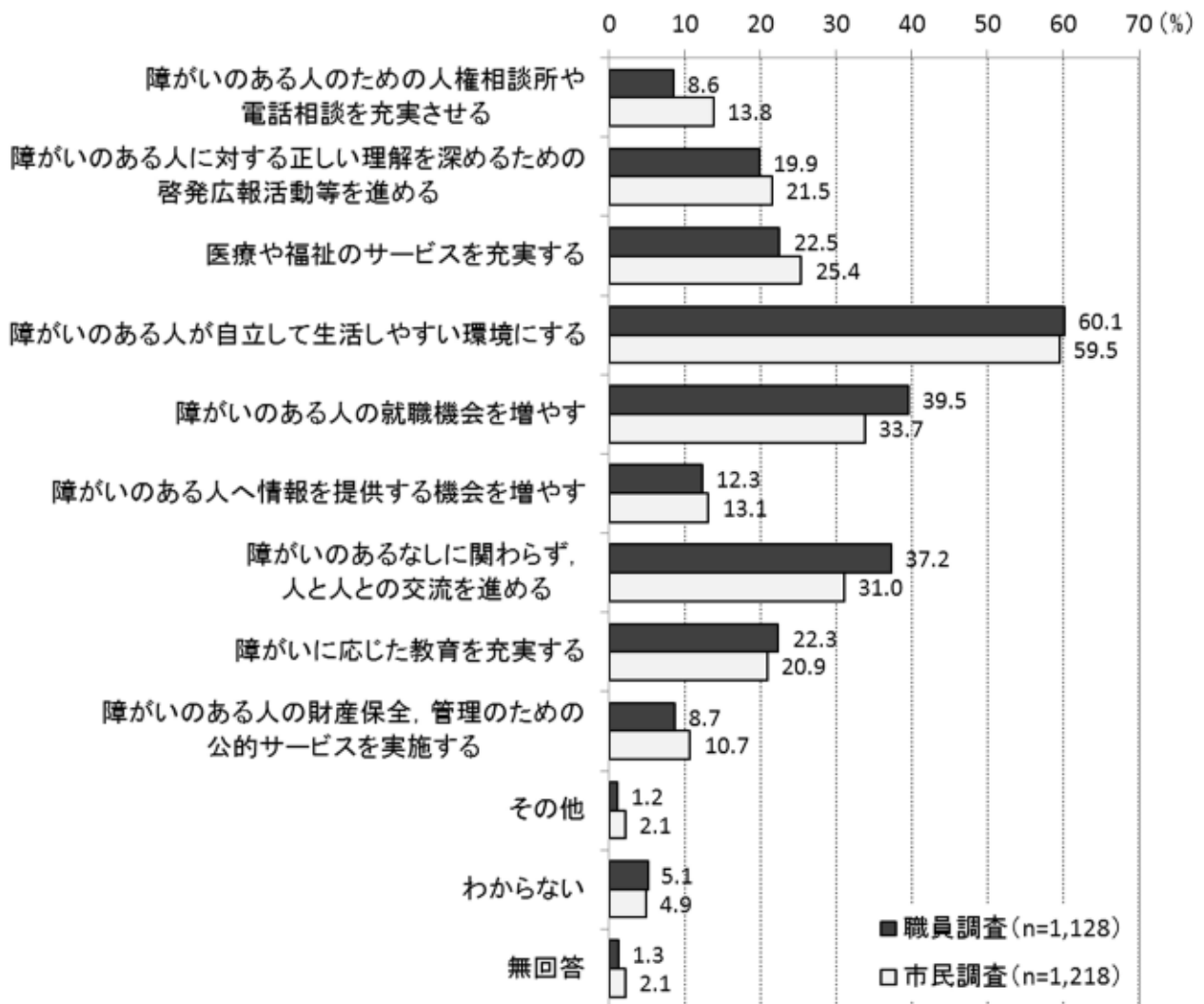
性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「働ける場所や能力を發揮する機会が少ない」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 8.4 ポイントの差が見られました。また、年代間でも回答した人の割合に 10.0 ポイント以上の差が見られました。

図表 14-2 性別・年齢別×障がいのある人の人権に関する問題点

	(n)	働ける場所や能力を發揮する機会が少ない	医療や福祉のサービスが十分でない	障がいに応じた教育が十分でない	じろじろ見られたり、避けられたりする	障がいのある人の意見や行動が尊重されない	必要な情報入手する機会が少ない	障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない	道路の段差解消、エレベーターの設置その他、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない	スポーツ活動や文化活動へ参加できる機会が少ない	障がいのあるなしに関わらずお互いにふれあい理解を深めるような機会が少ない	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	58.2	17.5	30.5	23.7	17.7	11.3	24.4	4.9	33.9	1.6	5.7	1.3	
男性	505	53.7	15.4	27.5	21.2	17.0	8.3	18.8	5.1	29.7	1.8	9.9	1.4	
女性	604	62.1	19.0	33.6	26.3	18.4	13.9	28.6	4.6	37.7	1.5	2.3	0.7	
10～20 歳代	229	50.7	12.7	27.5	37.1	18.8	10.0	22.3	5.7	28.8	2.2	5.7	0.0	
30 歳代	271	57.9	17.3	29.5	26.2	17.7	13.3	19.6	5.9	32.5	1.1	7.7	0.4	
40 歳代	236	53.8	16.1	30.1	23.3	18.2	13.6	23.3	3.8	37.7	1.3	6.8	0.0	
50 歳代	303	66.7	20.8	34.3	13.5	17.2	8.9	27.7	4.3	36.6	1.7	4.0	2.3	
60 歳代	71	64.8	22.5	32.4	19.7	16.9	11.3	36.6	5.6	33.8	1.4	2.8	2.8	

問 15 あなたは、障がいのある人の人権を守るのに必要なことはどのようなことだと思われ
 ますか。【複数回答】

図表 15-1 障がいのある人の人権を守るために特に必要なこと



障がいのある人の人権を守るために特に必要なこととして、「障がいのある人が自立して生活しやすい環境にする」が60.1%と最も多く、次いで「障がいのある人の就職機会を増やす」が39.5%、「障がいのあるなしに関わらず、人と人との交流を進める」が37.2%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位3つの項目と順位に違いは見られませんでした。ただし、「障がいのある人の就職機会を増やす」、「障がいのあるなしに関わらず、人と人との交流を進める」については、回答した人の割合が5.0ポイント以上高い結果となりました。「障がいのある人の人権相談所や電話相談を充実させる」と回答した人の割合については、5.0ポイント以上低い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても、「障がいのある人が自立して生活しやすい環境にする」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 14.0 ポイントの差が見られました。また、年代間でも回答した人の割合に 10.0 ポイント以上の差が見られました。特に 60 歳代では 70%以上と、回答した人の割合が高くなっています。

図表 15-2 性別・年齢別×障がいのある人の人権を守るために特に必要なこと

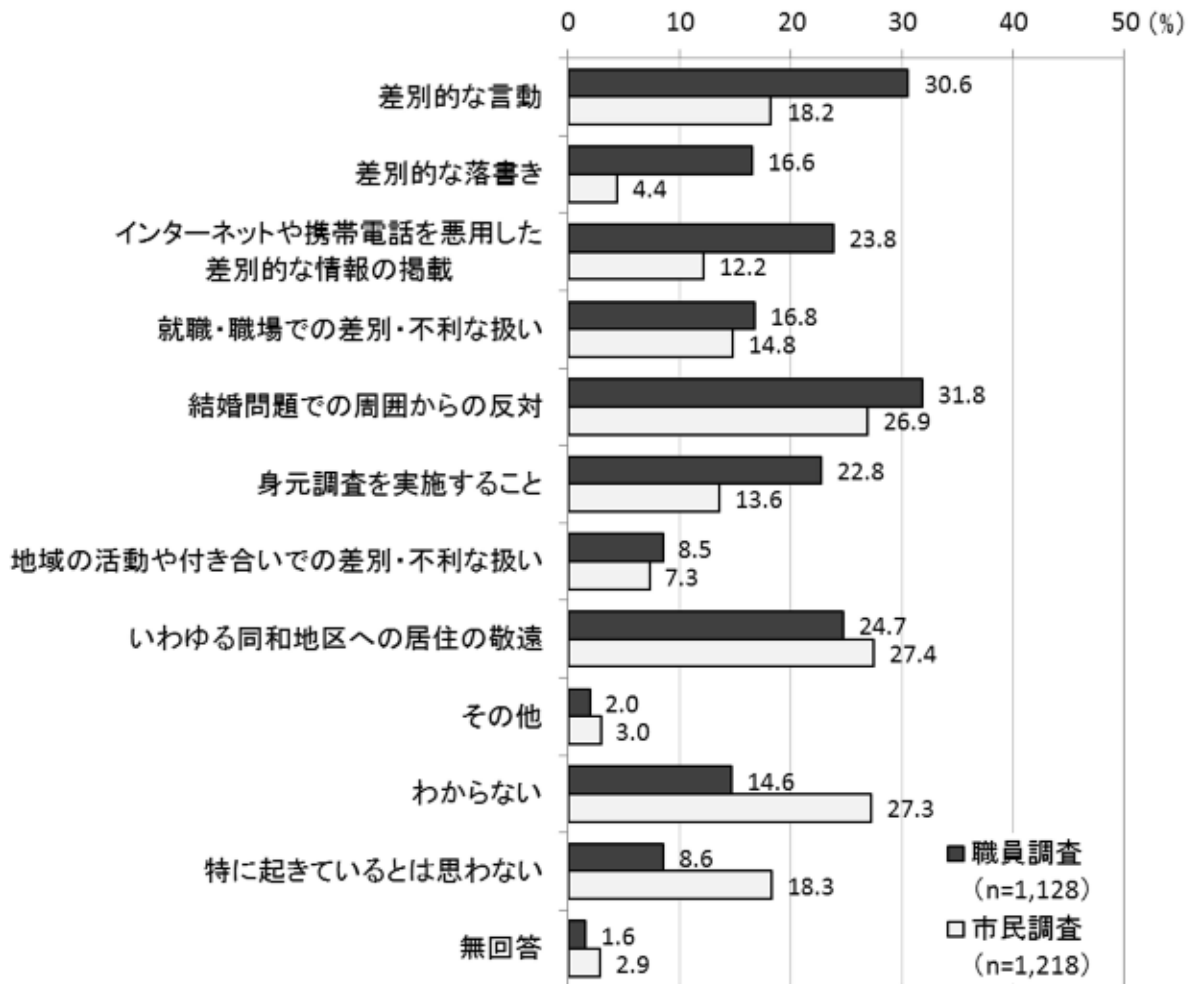
	(n)	障がいのある人のための人権相談所や電話相談を充実させる	障がいのある人に対する正しい理解を深めるための啓発広報活動等を進める	医療や福祉のサービスを充実する	障がいのある人が自立して生活しやすい環境にする	障がいのある人の就職機会を増やす	障がいのある人へ情報を提供する機会を増やす	障がいのあるなしに関わらず、人と人との交流を進める	障がいに応じた教育を充実する	障がいのある人の財産保全、管理のための公的サービスを実施する	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	8.6	19.9	22.5	60.1	39.5	12.3	37.2	22.3	8.7	1.2	5.1	1.3
男性	505	8.9	17.6	19.6	52.7	34.1	11.5	35.4	20.2	6.3	1.0	8.3	1.4
女性	604	8.3	21.9	25.2	66.7	44.0	13.4	38.6	24.7	10.6	1.3	2.6	0.7
10～20 歳代	229	7.9	17.5	22.7	56.8	33.2	12.2	40.2	26.2	9.6	0.9	3.5	0.0
30 歳代	271	7.7	18.1	19.2	53.5	43.9	12.2	42.4	21.8	10.0	0.4	7.0	0.7
40 歳代	236	7.6	21.6	19.1	61.0	39.4	14.4	33.9	22.5	8.9	1.7	7.6	0.0
50 歳代	303	11.2	19.8	26.1	66.3	39.9	10.6	33.0	21.1	6.9	2.0	4.0	2.3
60 歳代	71	7.0	29.6	32.4	70.4	43.7	16.9	35.2	19.7	7.0	0.0	1.4	1.4

7. 同和問題について

問 16 同和問題に関して、あなたは、今、どのような人権問題が起きていると思われますか。

【複数回答】

図表 16-1 同和問題に関して起きている人権問題



同和問題に関して起きている人権問題として、「結婚問題での周囲からの反対」が 31.8%と最も多く、次いで「差別的な言動」が 30.6%、「いわゆる同和地区への居住の敬遠」が 24.7%となりました。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位 3 つの項目が異なり、職員と市民との考えに違いが見られました。「わからない」あるいは「特に起きているとは思わない」と回答した人の割合が 5.0 ポイント以上低かったのに対して、「差別的な言動」、「差別的な落書き」、「インターネットや携帯電話を悪用した差別的な情報の掲載」、「身元調査を実施する」と回答した人の割合が 5.0 ポイント以上高い結果となりました。

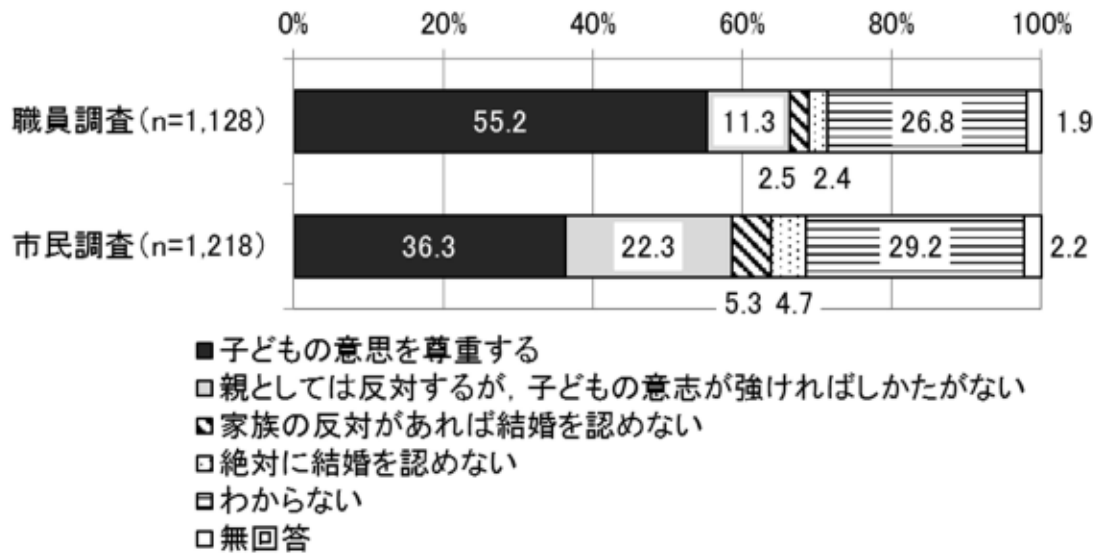
性別にみると、男性では「差別的な言動」が 29.9%、女性では「結婚問題での周囲からの反対」が 33.8%と最も多くなっています。続いて、年齢別にみると、10～20 歳代と 30 歳代では「差別的な言動」、40 歳代以降では「結婚問題での周囲からの反対」が最も多くなっています。

図表 16-2 性別・年齢別×同和問題に関して起きている人権問題

	(n)	差別的な言動	差別的な落書き	インターネットや携帯電話を悪用した差別的な情報の掲載	扱い	就職・職場での差別・不利な扱い	結婚問題での周囲からの反対	身元調査を実施すること	差別・不利な扱い	地域の活動や付き合いでの敬遠	いわゆる同和地区への居住のその他	わからない	特に起きているとは思わない	不明・無回答
全体	1,128	30.6	16.6	23.8	16.8	31.8	22.8	8.5	24.7	2.0	14.6	8.6	1.6	
男性	505	29.9	18.2	23.0	13.9	29.3	21.2	6.7	21.6	2.4	13.1	12.7	1.4	
女性	604	32.0	15.1	24.3	19.7	33.8	23.7	9.9	27.2	1.7	16.4	5.3	1.2	
10～20 歳代	229	40.2	8.3	27.9	19.2	34.5	13.5	13.1	21.0	1.7	12.2	8.3	0.0	
30 歳代	271	32.5	12.5	22.5	14.8	30.3	22.5	10.7	27.3	2.6	15.5	11.4	0.4	
40 歳代	236	26.7	16.1	24.2	18.2	27.1	25.4	5.9	26.7	2.1	16.1	5.5	1.3	
50 歳代	303	26.7	26.4	21.5	16.5	34.3	25.4	6.3	22.8	1.7	14.2	9.2	2.3	
60 歳代	71	26.8	15.5	23.9	16.9	35.2	29.6	2.8	29.6	1.4	19.7	8.5	2.8	

問 17 あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうされますか。

図表 17-1 子どもの結婚相手が同和地区の人の場合の対応



子どもの結婚相手が同和地区の人の場合の対応として、「子どもの意思を尊重する」が55.2%と最も多く、次いで「わからない」が26.8%、「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」が11.3%となっています。市民調査と比較すると、「子どもの意思を尊重する」と回答した人の割合が18.9ポイント高い一方、「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」と回答した人の割合が11.0ポイント低い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「子どもの意思を尊重する」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合が男女間で 8.5 ポイントの差が見られました。また、年代間でも回答した人の割合に 10.0 ポイント以上の差が見られました。特に 50 歳代と 60 歳代では 60% 以上と、他の年齢よりも回答した人の割合が高くなっています。

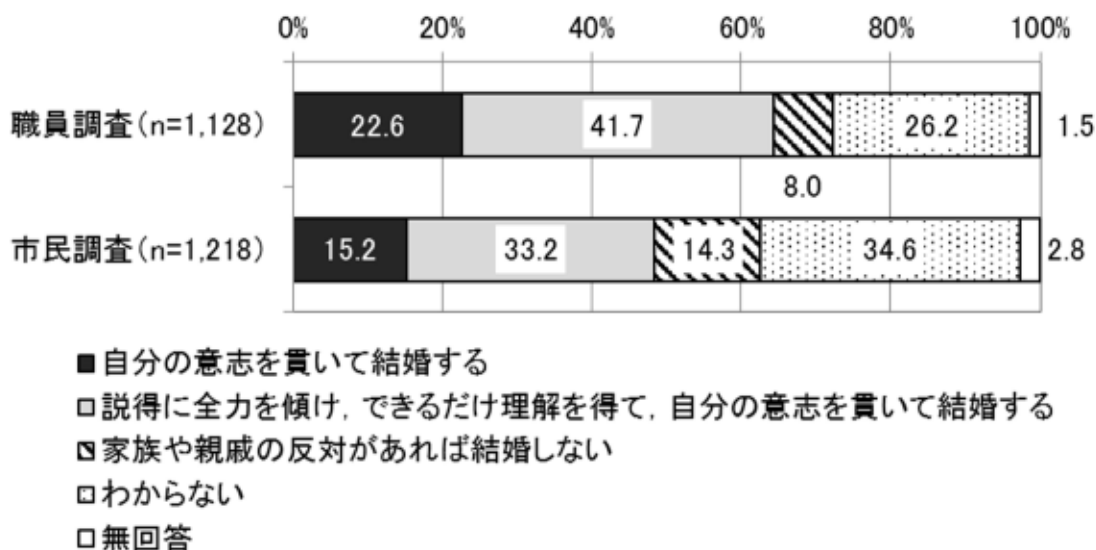
講演会参加状況別にみると、参加の有無にかかわらず、「子どもの意思を尊重する」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は、参加した人が 65.5% だったのに対して、参加したことがない人では 41.2% と、参加した人の方が 24.3 ポイント高い結果となりました。

図表 17-2 性別・年齢別・講演会参加状況別 × 子どもの結婚相手が同和地区の人の場合の対応

	(n)	子どもの意思を尊重する	子どもが親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない	家族の反対があれば結婚を認めない	絶対に結婚を認めない	わからない	不明・無回答
全体	1,128	55.2	11.3	2.5	2.4	26.8	1.9
男性	505	60.0	8.7	1.6	2.6	25.5	1.6
女性	604	51.5	13.6	3.3	2.2	28.1	1.3
10～20 歳代	229	50.2	14.8	1.7	2.2	30.6	0.4
30 歳代	271	55.7	8.1	2.2	3.7	29.2	1.1
40 歳代	236	47.0	11.9	3.4	2.5	33.9	1.3
50 歳代	303	63.0	11.2	2.3	1.3	19.8	2.3
60 歳代	71	67.6	11.3	4.2	1.4	14.1	1.4
人権講演会等に参加した	664	65.5	8.9	2.0	0.8	21.4	1.5
人権講演会等に参加したことがない	434	41.2	15.0	3.5	4.8	35.3	0.2

問 18 あなたが同和地区の人と、結婚しようとしたとき、家族や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどうされますか。

図表 18-1 同和地区の人と結婚しようとした際に家族から反対を受けたときの対応



同和地区の人と結婚しようとした際に家族から反対を受けたときの対応として、「説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する」が 41.7%と最も多く、次いで「わからない」が 26.2%、「自分の意志を貫いて結婚する」が 22.6%となっています。市民調査と比較すると、「家族や親戚の反対があれば結婚しない」、「わからない」と回答した人の割合が 5.0ポイント以上低く、「自分の意志を貫いて結婚する」、「説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する」と回答した人の割合が 5.0ポイント以上高い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 6.6 ポイントの差が見られました。また、年代間でも回答した人の割合に 10.0 ポイント以上の差が見られました。

講演会参加状況別にみると、参加の有無にかかわらず、「説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は、参加した人が 47.4%だったのに対して、参加したことがない人では 34.3%と、参加した人の方が 13.1 ポイント高い結果となりました。また、「自分の意志を貫いて結婚する」と回答した人の割合についても、5.0 ポイント以上の差が見られました。

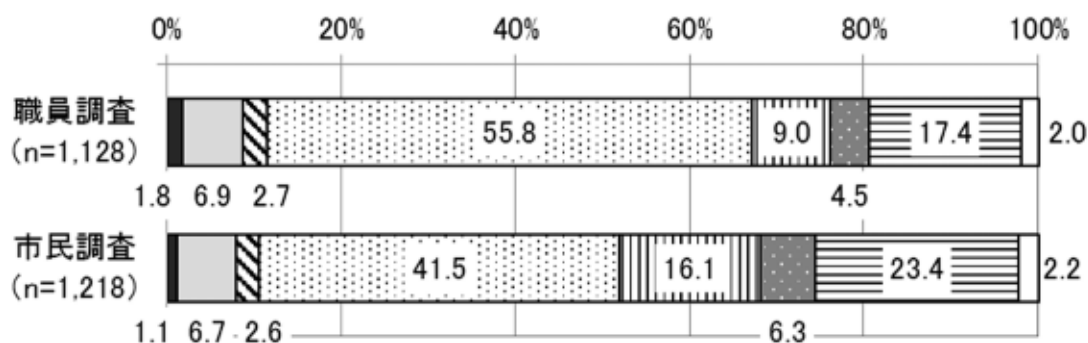
図表 18-2 性別・年齢別・講演会参加状況別 ×

同和地区の人と結婚しようとした際に家族から反対を受けたときの対応

	(n)	自分の意志を貫いて結婚する	説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する	家族や親戚の反対があれば結婚しない	わからない	不明・無回答
全体	1,128	22.6	41.7	8.0	26.2	1.5
男性	505	28.5	38.4	5.3	26.1	1.6
女性	604	17.4	45.0	10.3	26.5	0.8
10～20 歳代	229	17.0	47.6	7.4	27.9	0.0
30 歳代	271	20.7	43.2	9.6	26.2	0.4
40 歳代	236	22.9	39.0	6.4	31.8	0.0
50 歳代	303	26.7	40.6	7.9	21.5	3.3
60 歳代	71	29.6	35.2	9.9	23.9	1.4
人権講演会等に参加した	664	25.0	47.4	6.6	20.0	0.9
人権講演会等に参加したことがない	434	19.6	34.3	10.4	35.3	0.5

問 19 同和問題の解決に対するあなたのお考えはどれに近いですか。

図表 19-1 同和問題解決に対する考え



- これは、同和地区の人だけの問題で、自分とは直接関係のない問題だと思う
- 自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- ▣自分ではどうしようもない問題だから、誰かしかるべき人が解決してくれると思う
- 人権に関わる問題だから、社会全体で解決に取り組み、自分も努力するべきと思う
- そっとしておけば自然になくなる問題だと思う
- その他
- わからない
- 無回答

同和問題解決に対する考えとして、「人権に関わる問題だから、社会全体で解決に取り組み自分も努力するべきと思う」が 55.8%と最も多く、次いで「わからない」が 17.4%、「そっとしておけば自然になくなる問題だと思う」が 9.0%となっています。市民調査と比較すると、「そっとしておけば自然になくなる問題だと思う」あるいは「わからない」と回答した人の割合が 5.0 ポイント以上低く、「人権に関わる問題だから、社会全体で解決に取り組み自分も努力するべきと思う」と回答した人の割合が 5.0 ポイント以上高い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「人権に関わる問題だから、社会全体で解決に取り組み自分も努力するべきと思う」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で13.3ポイントの差が見られました。また、年代間でも回答した人の割合に10.0ポイント以上の差が見られました。特に50歳代と60歳代では65%以上と、他の年齢よりも回答した人の割合が高くなっています。

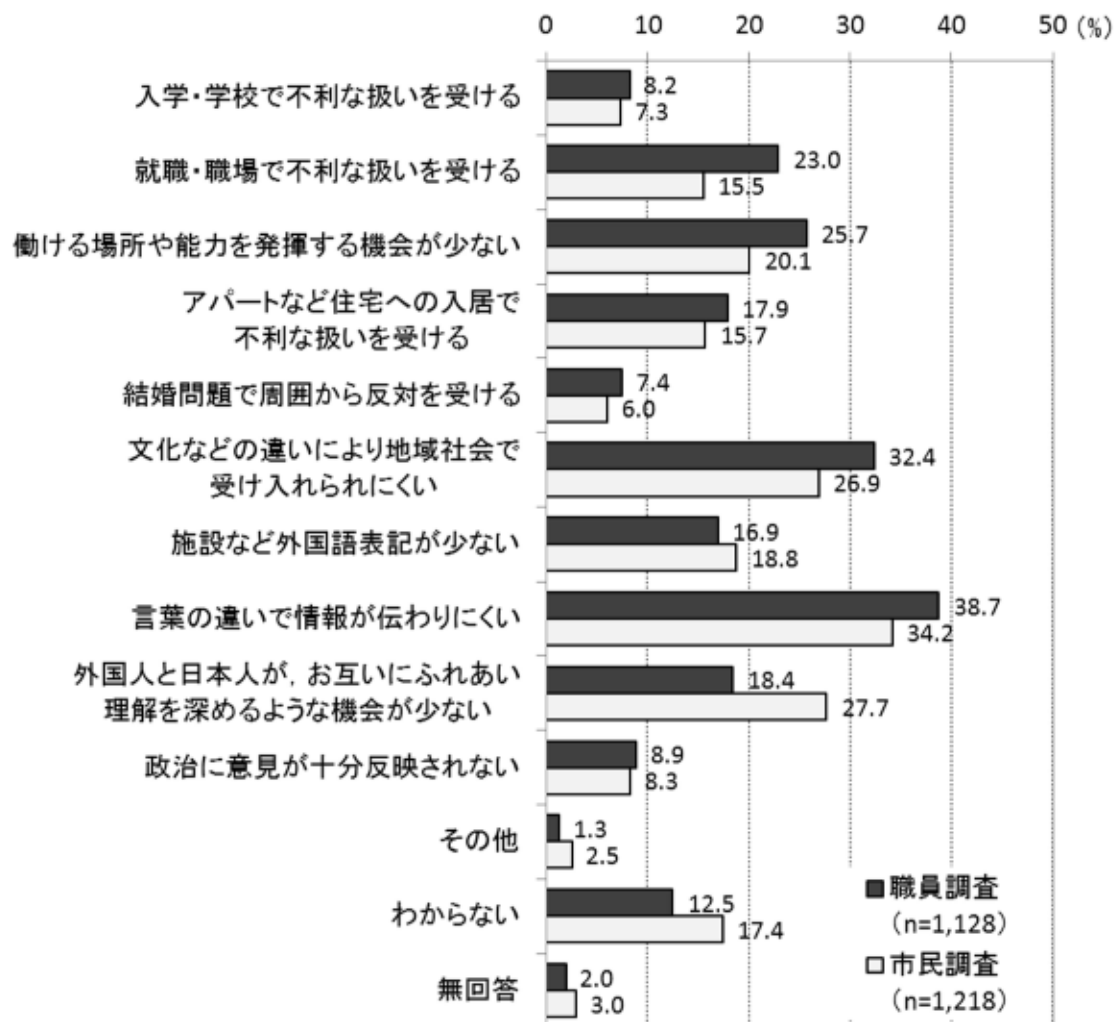
図表 19-2 性別・年齢別×同和問題解決に対する考え

	(n)	これは、同和地区の人だけの問題で、自分とは直接関係のない問題だと思う	思う なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う	自分ではどうしようもない問題だから、誰かしかるべき人が解決してくれると思う	自分ではどうしようもない問題だから、誰かしかるべき人が解決してくれると思う	人権に関わる問題だから、社会全体で解決に取り組み自分も努力するべきと思う	そっとしておけば自然になくなる問題だと思う	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	1.8	6.9	2.7	55.8	9.0	4.5	17.4	2.0	
男性	505	1.8	6.5	3.6	48.5	13.3	6.5	17.6	2.2	
女性	604	1.8	7.3	2.2	61.8	5.3	3.0	17.5	1.2	
10～20歳代	229	2.6	9.6	3.9	43.7	13.1	5.7	21.0	0.4	
30歳代	271	2.6	8.9	3.3	49.8	12.5	4.8	17.3	0.7	
40歳代	236	1.3	6.4	3.0	55.1	6.4	3.8	22.9	1.3	
50歳代	303	1.0	4.0	1.3	69.0	5.6	4.3	11.6	3.3	
60歳代	71	1.4	5.6	2.8	64.8	5.6	2.8	15.5	1.4	

8. 外国人の人権について

問 20 あなたは、日本に居住している外国人に関することから、人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるのはどのようなことですか。【複数回答】

図表 20-1 在住外国人の人権に関する問題点



在住外国人の人権に関する問題点として、「言葉の違いで情報が伝わりにくい」が 38.7%と最も多く、次いで「文化などの違いにより地域社会で受け入れられにくい」が 32.4%、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」が 25.7%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位 3つの項目が異なり、職員と市民との考えに違いが見られました。「就職・職場で不利な扱いを受ける」、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」、「文化などの違いにより地域社会で受け入れられにくい」については、回答した人の割合が5.0ポイント以上高くなった一方、「外国人と日本人が、お互いにふれあい理解を深めるような機会が少ない」については、回答した人の割合が5.0ポイント以上低い結果となりました。

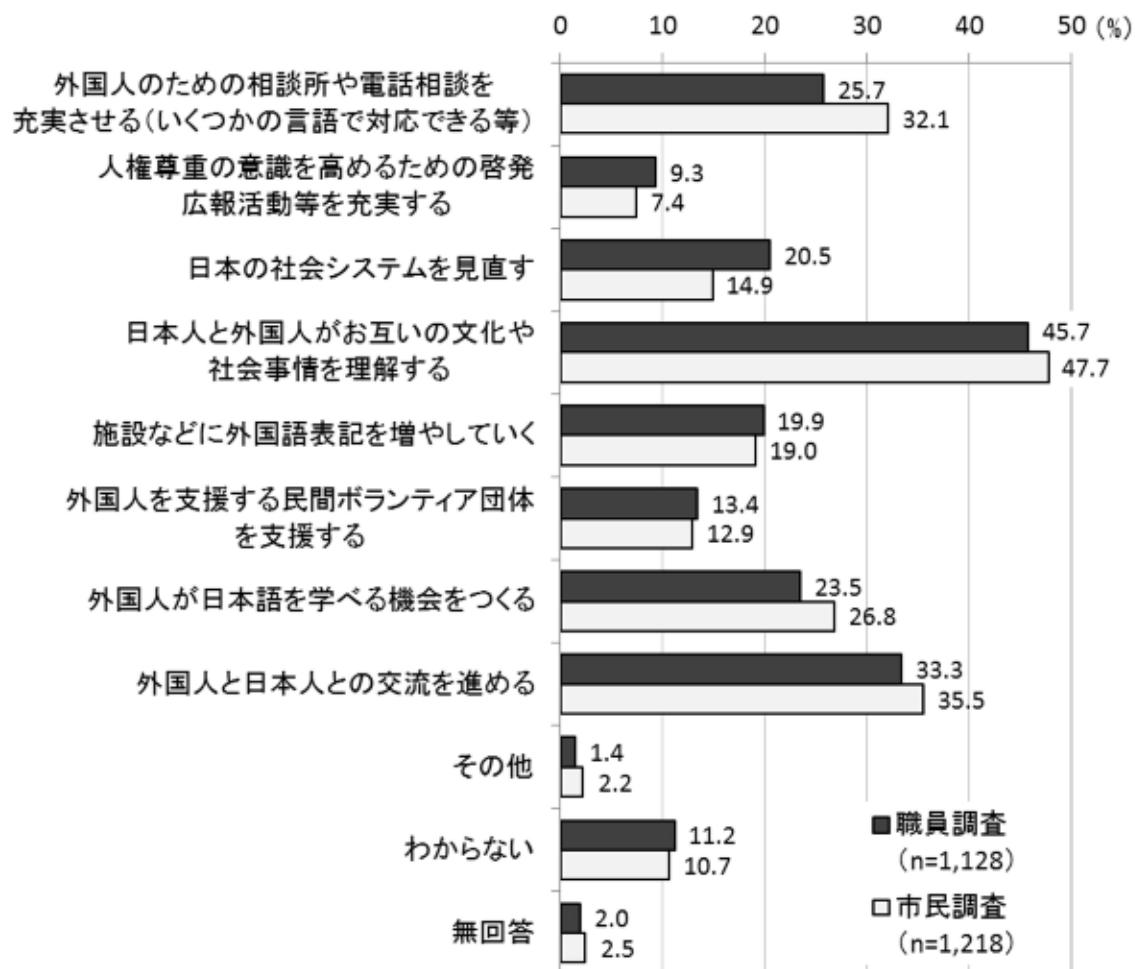
性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「言葉の違いで情報が伝わりにくい」が最も多くなっています。ただし、年代間で回答した人の割合に 10.0 ポイント以上の差が見られました。

図表 20-2 性別・年齢別 × 在住外国人の人権に関する問題点

	(n)	入学・学校で不利な扱いを受ける	就職・職場で不利な扱いを受ける	働く場所や能力を発揮する機会が少ない	アパートなど住宅への入居で不利な扱いを受ける	結婚問題で周囲から反対を受ける	文化などの違いにより地域社会で受け入れられにくい	施設など外国語表記が少ない	言葉の違いで情報が伝わりにくい	外国人と日本人が、お互いにふれあい理解を深めるような機会が少ない	政治に意見が十分反映されない	その他	わからない
全体	1,128	8.2	23.0	25.7	17.9	7.4	32.4	16.9	38.7	18.4	8.9	1.3	12.5
男性	505	8.3	19.8	21.2	14.7	6.7	30.7	13.9	36.6	18.0	5.5	1.4	16.6
女性	604	8.4	26.0	29.8	20.9	8.1	33.6	19.9	40.4	18.5	11.9	1.3	9.1
10～20 歳代	229	6.1	21.4	20.5	14.4	9.2	35.4	25.3	41.0	16.6	10.9	1.3	7.9
30 歳代	271	10.3	18.8	25.8	15.5	7.7	27.7	16.6	37.3	19.2	7.4	0.7	15.9
40 歳代	236	9.7	28.4	26.7	20.3	5.9	29.2	15.7	34.7	16.9	9.3	2.1	13.6
50 歳代	303	6.9	24.4	29.7	20.8	7.3	34.7	11.9	39.3	19.5	8.6	1.7	12.9
60 歳代	71	9.9	22.5	25.4	19.7	7.0	39.4	19.7	49.3	21.1	9.9	0.0	9.9

問 21 あなたは、日本に居住している外国人の人権を守るのに特に必要なことはどのようなことだと思いますか。【複数回答】

図表 21-1 在住外国人の人権を守るために特に必要なこと



在住外国人の人権を守るために特に必要なこととして、「日本人と外国人がお互いの文化や社会事情を理解する」が 45.7%と最も多く、次いで「外国人と日本人との交流を進める」が 33.3%、「外国人のための相談所や電話相談を充実させる(いくつかの言語で対応できる等)」が 25.7%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位 3 つの項目と順位に違いは見られませんでした。ただし、回答した人の割合については、「外国人のための相談所や電話相談を充実させる(いくつかの言語で対応できる等)」では 5.0 ポイント以上低くなった一方、「日本の社会システムを見直す」では 5.0 ポイント以上高い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「日本人と外国人がお互いの文化や社会事情を理解する」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 11.0 ポイントの差が見られました。

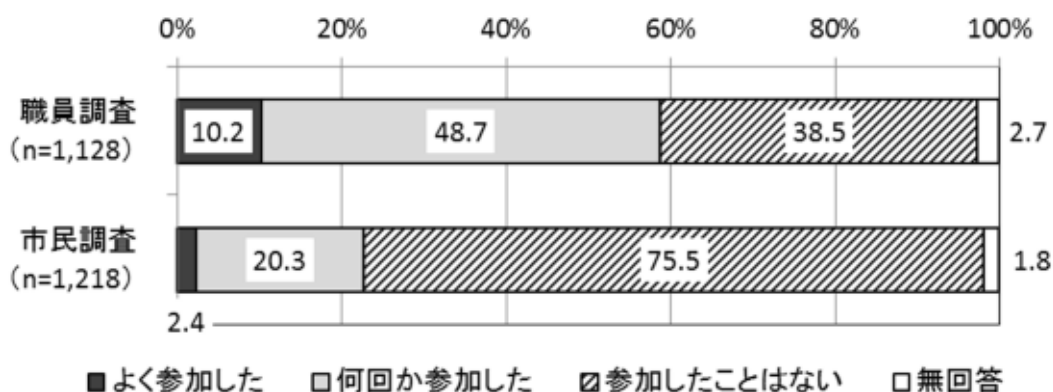
図表 21-2 性別・年齢別×在住外国人の人権を守るために特に必要なこと

	(n)	外国人のための相談所や電話相談を充実させる(いくつかの言語で対応できる等)	人権尊重の意識を高めるための啓発広報活動等を充実する	日本の社会システムを見直す	日本人と外国人がお互いの文化や社会事情を理解する	施設などに外国語表記を増やしていく	外国人を支援する民間ボランティア団体を支援する	外国人が日本語を学べる機会をつくる	外国人と日本人との交流を進める	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	25.7	9.3	20.5	45.7	19.9	13.4	23.5	33.3	1.4	11.2	2.0
男性	505	22.4	9.1	15.8	39.8	17.2	11.1	22.8	31.1	1.6	16.2	2.4
女性	604	29.0	9.4	24.5	50.8	22.7	15.6	23.3	35.3	1.2	7.1	0.8
10～20 歳代	229	21.8	4.8	18.8	44.5	24.0	11.8	26.2	39.3	1.7	8.3	0.9
30 歳代	271	22.5	5.9	21.4	43.2	19.9	11.4	19.6	32.8	1.1	14.8	1.1
40 歳代	236	23.7	10.2	22.9	48.7	17.4	13.6	22.0	31.8	0.8	11.9	1.7
50 歳代	303	30.0	13.5	19.8	46.9	17.8	16.8	22.8	33.0	1.7	10.2	2.3
60 歳代	71	40.8	15.5	19.7	47.9	28.2	12.7	33.8	22.5	1.4	9.9	0.0

9. 人権問題に関する啓発活動について

問 22 あなたは、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、同和問題、外国人等の人権問題に関する講演会や研修会に参加されたことがありますか。

図表 22-0-1 人権問題に関する講演会や研修会への参加経験



人権問題に関する講演会や研修会への参加経験について、「何回か参加した」が 48.7%と最も多く、次いで「参加したことはない」が 38.5%、「よく参加した」が 10.2%となっています。市民調査と比較すると、「参加したことはない」と回答した人の割合が 37.0 ポイント低くなった一方、「よく参加した」が 7.8 ポイント、「何回か参加した」が 28.4 ポイント高い結果となりました。

性別にみると、男性では「参加したことはない」が 45.0%、女性では「何回か参加した」が 53.1%と最も多くなっています。続いて、年齢別にみると、10～20 歳代と 40 歳代では「参加したことはない」、30 歳代、50 歳代と 60 歳代では「何回か参加した」が最も多くなっています。

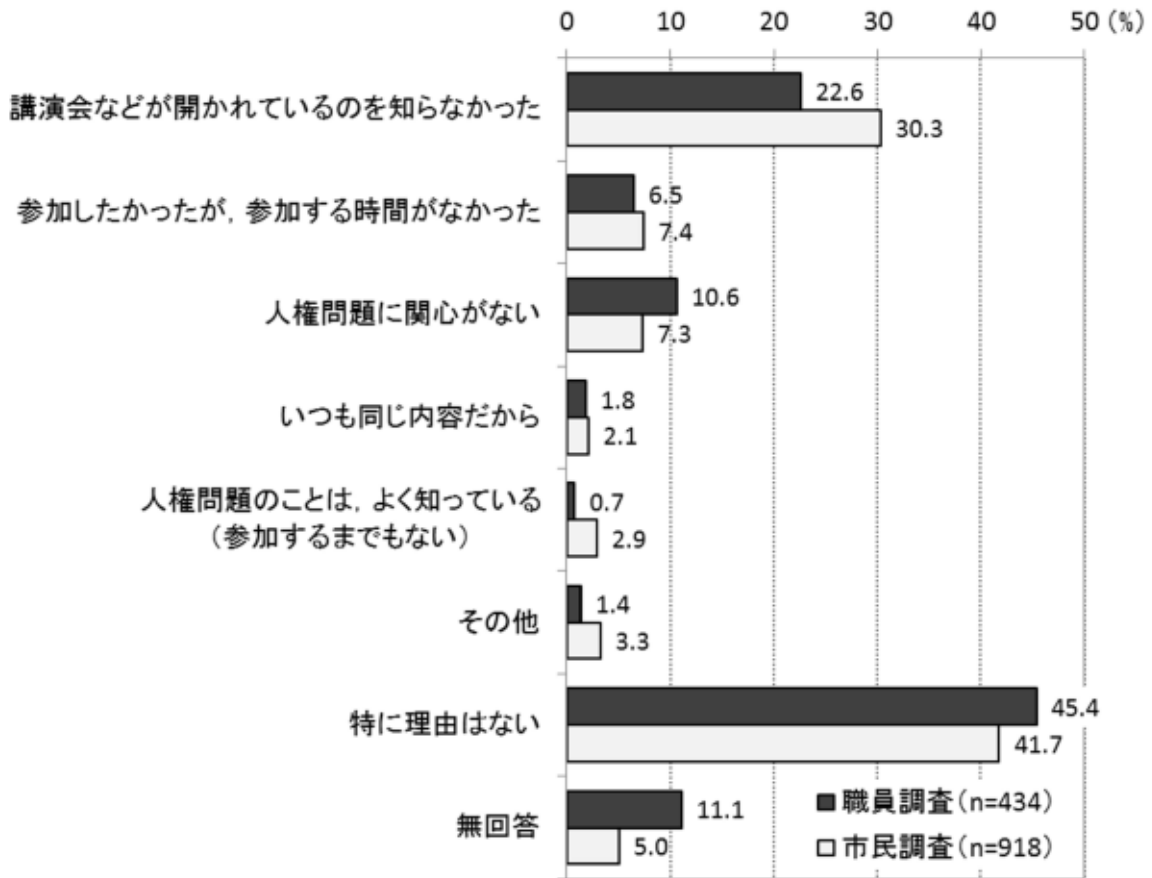
図表 22-0-2 性別・年齢別×人権問題に関する講演会や研修会への参加経験

	(n)	よく参加した	何回か参加した	参加したことはない	不明・無回答
全体	1,128	10.2	48.7	38.5	2.7
男性	505	7.9	43.8	45.0	3.4
女性	604	11.8	53.1	33.6	1.5
10～20 歳代	229	3.5	41.9	52.8	1.7
30 歳代	271	4.1	47.6	47.2	1.1
40 歳代	236	9.7	43.2	44.1	3.0
50 歳代	303	19.1	56.4	21.8	2.6
60 歳代	71	16.9	62.0	16.9	4.2

問 22-1 参加されたことがない主な理由は何ですか。

(問 22 で「3 参加したことはない」に○をつけられて方のみ回答)

図表 22-1-1 人権問題に関する講演会等に参加したことがない理由



参加したことがない理由については、「特に理由がない」が 45.4%と最も多く、次いで「講演会などが開かれているのを知らなかった」が 22.6%、「人権問題に関心がない」が 10.6%となっています。市民調査と比較すると、「講演会などが開かれているのを知らなかった」と回答した人の割合が 7.7 ポイント低い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに「特に理由はない」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 7.9 ポイントの差が見られました。また、年代間でも回答した人の割合に 10.0 ポイント以上の差が見られ、年齢が高くなるにつれて回答した人の割合も高くなっています。

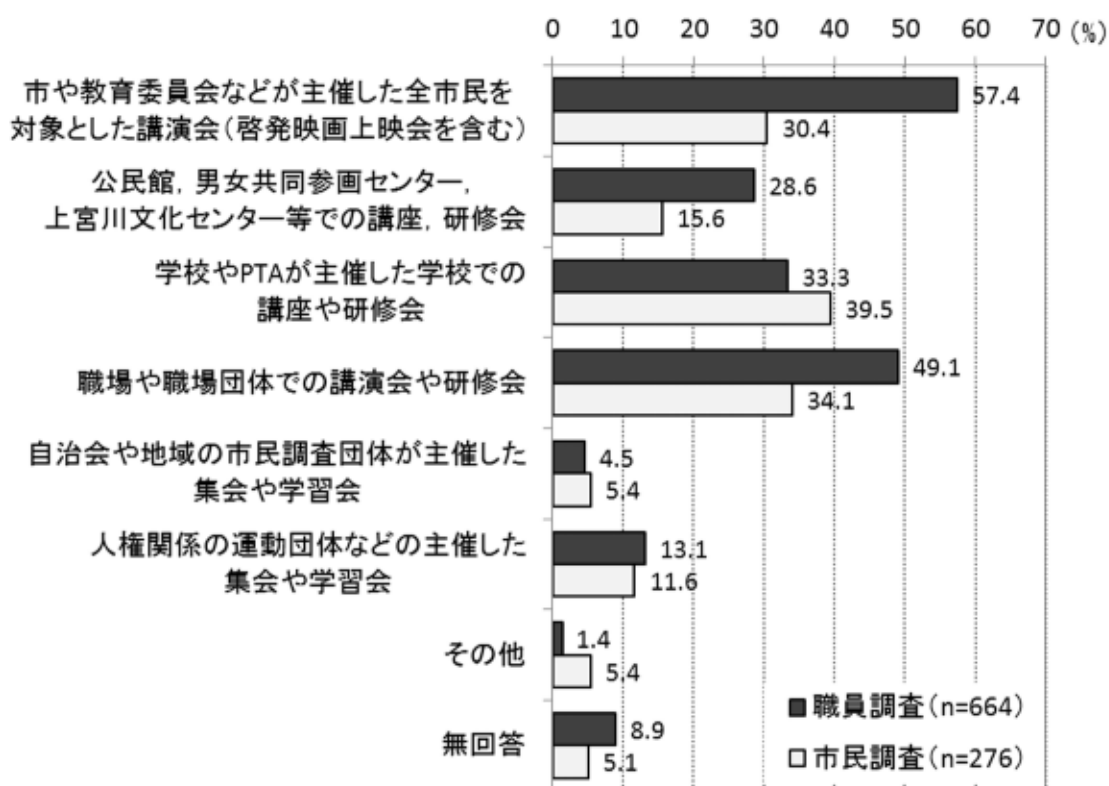
図表 22-1-2 性別・年齢別×人権問題に関する講演会等に参加したことがない理由

	(n)	講演会などが開かれているの 知らなかった	参加したかったが、参加する時間 がなかった	人権問題に関心がない	いつも同じ内容だから	人権問題のことは、よく知っている (参加するまでもない)	その他	特に理由はない	不明・無回答
全体	434	22.6	6.5	10.6	1.8	0.7	1.4	45.4	11.1
男性	121	19.8	4.8	15.0	2.2	0.4	1.3	49.3	7.0
女性	128	25.6	8.4	5.4	1.5	1.0	1.5	41.4	15.3
10～20 歳代	104	34.7	2.5	14.0	2.5	0.8	0.8	33.9	10.7
30 歳代	66	20.3	6.3	10.2	0.0	0.0	1.6	48.4	13.3
40 歳代	12	13.5	10.6	9.6	2.9	1.9	1.0	48.1	12.5
50 歳代	434	19.7	7.6	7.6	3.0	0.0	3.0	53.0	6.1
60 歳代	121	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0

問 22-2 参加されたのはどういう種類のものでしたか。【複数回答】

(問 22 で「1 よく参加した」あるいは「2 何回か参加した」に○をつけられて方のみ回答)

図表 22-2-1 参加した講演会等の種類



参加した講演会等の種類として、「市や教育委員会などが主催した全市民を対象とした講演会(啓発映画上映会を含む)」が 57.4%と最も多く、次いで「職場や職場団体での講演会や研修会」が 49.1%、「学校やPTAが主催した学校での講座や研修会」が 33.3%となっています。市民調査と比較すると、「市や教育委員会などが主催した全市民を対象とした講演会(啓発映画上映会を含む)」、「公民館, 男女共同参画センター, 上宮川文化センター等での講座, 研修会」、「職場や職場団体での講演会や研修会」と回答した人の割合が 10.0 ポイント以上高くなった一方、「学校やPTAが主催した学校での講座や研修会」と回答した人の割合については 6.2 ポイント低い結果となりました。

性別にみると、男女ともに「市や教育委員会などが主催した全市民を対象とした講演会(啓発映画上映会を含む)」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で 5.0 ポイント以上の差が見られました。続いて、年齢別にみると、10～20歳代、40歳代以上では「市や教育委員会などが主催した全市民を対象とした講演会(啓発映画上映会を含む)」, 30歳では「職場や職場団体での講演会や研修会」が最も多くなっています。

図表 22-2-2 性別・年齢別×参加した講演会等の種類

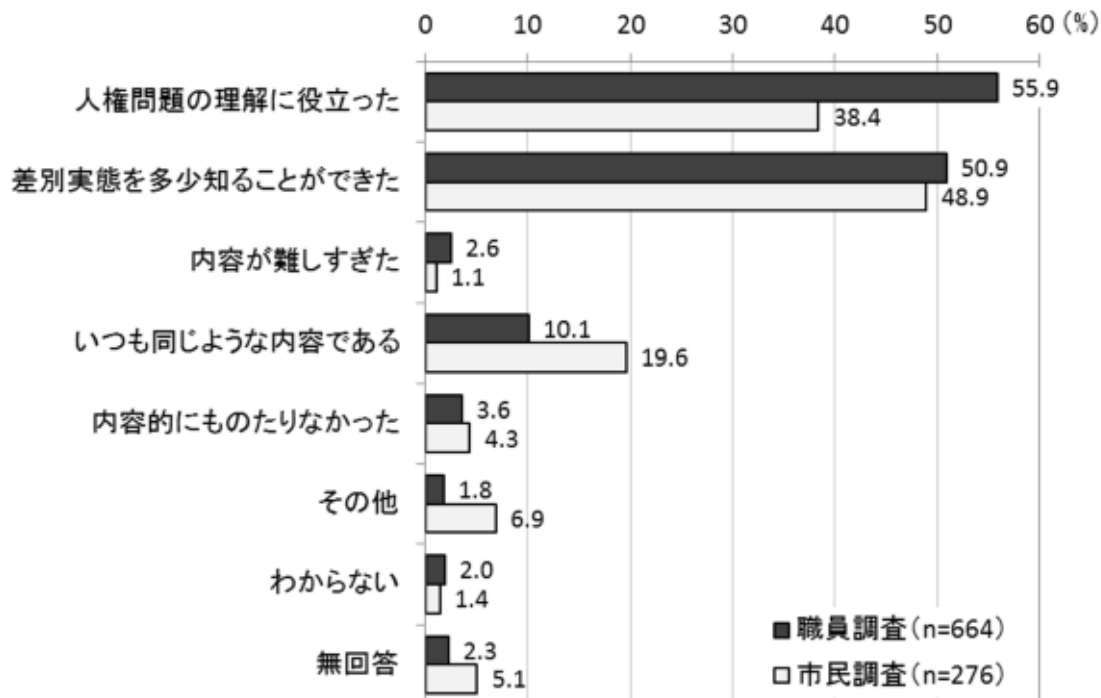
	(n)	市や教育委員会などが主催した全市民 を対象とした講演会 (啓発映画上映会を含む)	公民館、男女共同参画センター、上宮川 文化センター等での講座、研修会	学校やPTAが主催した学校での講座や 研修会	職場や職場団体での講演会や研修会	自治会や地域の市民団体が主催した 集会や学習会	人権関係の運動団体などの主催した 集会や学習会	その他	不明・無回答
全体	664	57.4	28.6	33.3	49.1	4.5	13.1	1.4	8.9
男性	104	59.8	25.3	32.6	51.3	3.8	13.0	1.5	6.5
女性	140	54.8	30.4	33.4	48.2	4.6	12.5	1.0	10.7
10～20歳代	125	45.2	18.3	32.7	43.3	3.8	4.8	1.0	6.7
30歳代	229	47.9	25.0	34.3	52.1	4.3	10.0	1.4	6.4
40歳代	56	57.6	36.0	32.8	45.6	4.0	10.4	2.4	12.0
50歳代	664	66.8	31.9	34.5	51.5	5.2	18.3	0.9	9.6
60歳代	104	60.7	23.2	23.2	55.4	1.8	17.9	0.0	10.7

問 22-3 参加された講演会や研修会などの内容についてのご感想は、次のどれですか。

【複数回答（○は2つだけ）】

（問 22 で「1 よく参加した」あるいは「2 何回か参加した」に○をつけられて方のみ回答）

図表 22-3-1 参加した講演会等の感想



参加した講演会等の感想については、「人権問題の理解に役立った」が 55.9%と最も多く、次いで「差別実態を多少知ることができた」が 50.9%、「いつも同じような内容である」が 10.1%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位 3 つの項目に違いは見られませんでした。ただし、「人権問題の理解に役立った」と回答した人の割合は 17.5 ポイント高い結果となり、職員調査では回答した人の割合が最も高くなりました。一方、「いつも同じような内容である」と回答した人の割合については、9.5 ポイント低い結果となりました。

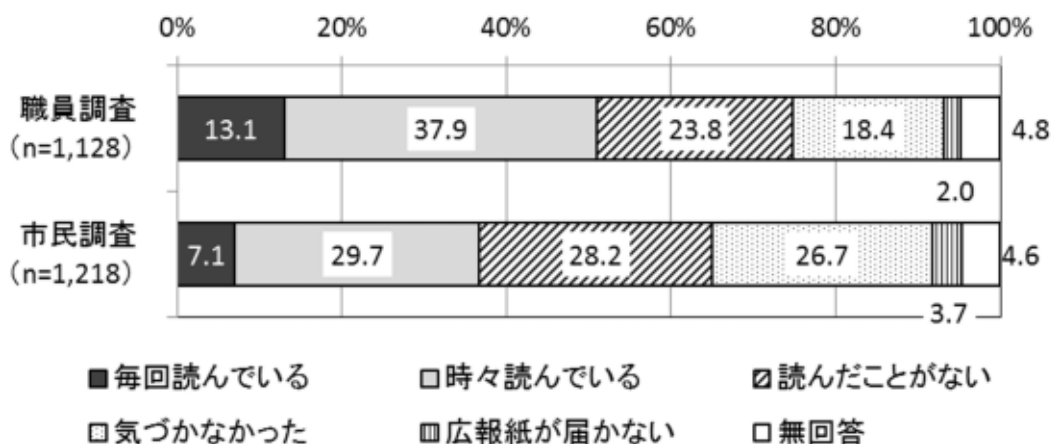
性別にみると、男女ともに「人権問題の理解に役立った」が最も多くなっています。続いて、年齢別にみると、10～20歳では「差別実態を多少知ることができた」、30歳代以上では「人権問題の理解に役立った」が最も多くなっています。

図表 22-3-2 性別・年齢別×参加した講演会等の感想

	(n)	人権問題の理解に役立った	差別実態を多少知ることができた	内容が難しすぎた	いつも同じような内容である	内容的にものたりなかった	その他	わからない	不明・無回答
全体	664	55.9	50.9	2.6	10.1	3.6	1.8	2.0	2.3
男性	104	53.3	50.2	0.8	13.4	3.8	2.7	1.1	2.3
女性	140	57.1	51.8	3.8	8.2	3.3	1.3	2.6	2.0
10～20歳代	125	43.3	60.6	6.7	5.8	0.0	1.9	0.0	1.9
30歳代	229	55.7	48.6	1.4	7.1	2.1	2.9	2.9	1.4
40歳代	56	44.6	38.9	1.1	5.7	1.7	2.3	2.3	1.1
50歳代	664	63.3	49.3	2.2	10.9	3.9	0.9	1.7	1.3
60歳代	104	48.2	42.9	1.8	21.4	8.9	1.8	3.6	3.6

問 23 芦屋市では、「広報あしや」の5月、8月、12月に人権特集記事を掲載していますが、あなたは読んだことがありますか。

図表 23-1 「広報あしや」の人権特集記事の閲覧状況



「広報あしや」の人権特集記事の閲覧状況について、「時々読んでいる」が 37.9%と最も多く、次いで「読んだことがない」が 23.8%、「気づかなかった」が 18.4%となっています。市民調査と比較すると、「気づかなかった」と回答した人の割合が 8.3 ポイント低くなった一方、「毎回読んでいる」あるいは「時々読んでいる」と回答した人の割合が 5.0 ポイント以上高い結果となりました。

性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「時々読んでいる」が最も多くなっています。ただし、年代間で回答した人の割合に 10.0 ポイント以上の差が見られました。また、「毎回読んでいる」と回答した人の割合をみると、年齢が高くなるにつれて多くなっています。

図表 23-2 性別・年齢別×「広報あしや」の人権特集記事の閲覧状況

	(n)	毎回読んでいる	時々読んでいる	読んだことがない	気づかなかった	広報紙が届かない	不明・無回答
全体	1,128	13.1	37.9	23.8	18.4	2.0	4.8
男性	505	13.7	36.2	27.5	15.6	1.2	5.7
女性	604	11.9	39.6	21.2	21.0	2.8	3.5
10～20 歳代	229	5.2	35.8	27.9	21.4	1.7	7.9
30 歳代	271	9.2	34.3	30.6	19.2	3.0	3.7
40 歳代	236	12.7	35.6	23.3	21.6	1.7	5.1
50 歳代	303	18.8	44.2	17.2	15.5	1.7	2.6
60 歳代	71	26.8	40.8	18.3	9.9	2.8	1.4

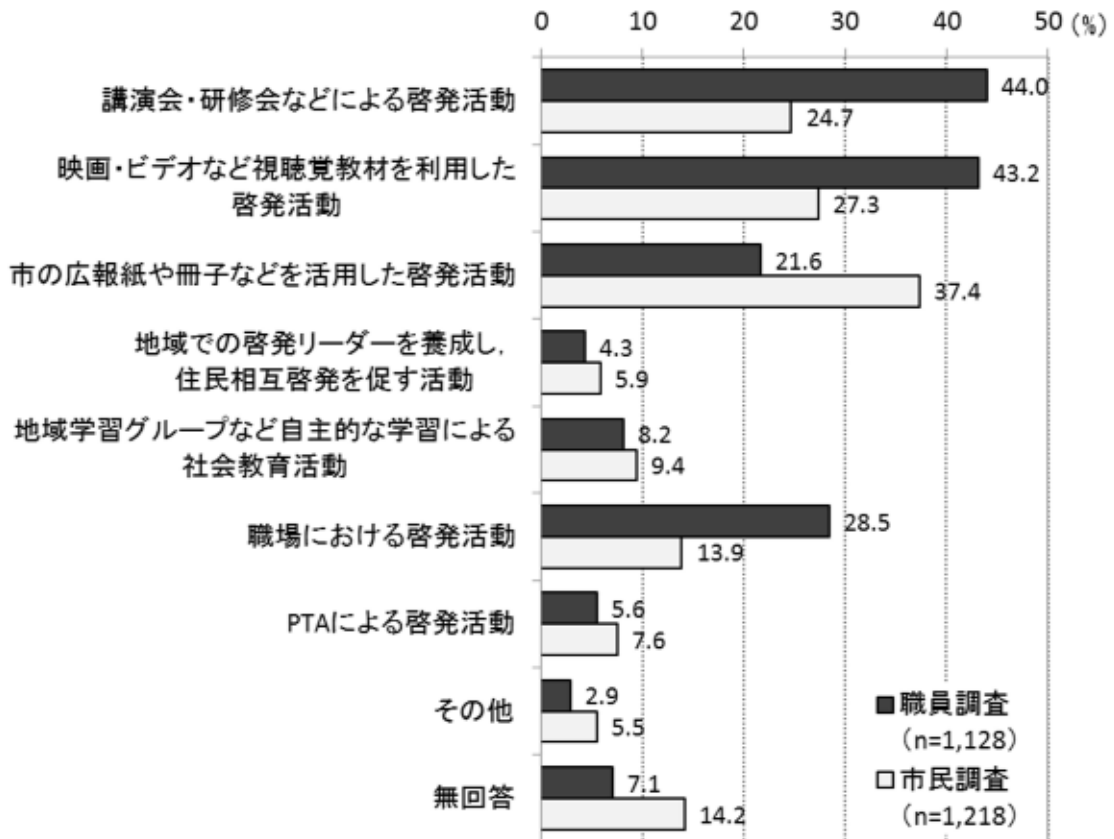
講演会参加状況別にみると、参加した人の方が「毎回読んでいる」と回答した人の割合が 12.1 ポイント、「時々読んでいる」と回答した人の割合が 17.9 ポイント高い結果となっています。

図表 23-3 講演会参加状況別×「広報あしや」の人権特集記事の閲覧状況

	(n)	毎回読んでいる	時々読んでいる	読んだことがない	気づかなかつた	広報紙が届かない	不明・無回答
人権講演会等に 参加した	664	18.1	45.8	16.9	16.6	1.7	1.1
人権講演会等に 参加したことがない	434	6.0	27.9	35.3	21.4	2.5	6.9

問 24 あなたが、さまざまな人権問題について理解を深めるにあたって、どのような啓発活動なら、参加したり、活用してみたいと思いますか。【複数回答】

図表 24-1 人権問題の啓発活動で参加・活用したいもの



人権問題の啓発活動で参加・活用したいものとして、「講演会・研修会などによる啓発活動」が44.0%と最も多く、次いで「映画・ビデオなど視聴覚教材を利用した啓発活動」が43.2%、「職場における啓発活動」が28.5%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位3つの項目が異なり、職員と市民との考えに違いが見られました。回答した人の割合の差をみると、「講演会・研修会などによる啓発活動」では19.3ポイント、「映画・ビデオなど視聴覚教材を利用した啓発活動」では15.9ポイント、「職場における啓発活動」では14.6ポイント高くなった一方、「市の広報紙や冊子などを活用した啓発活動」については15.8ポイント低い結果となりました。

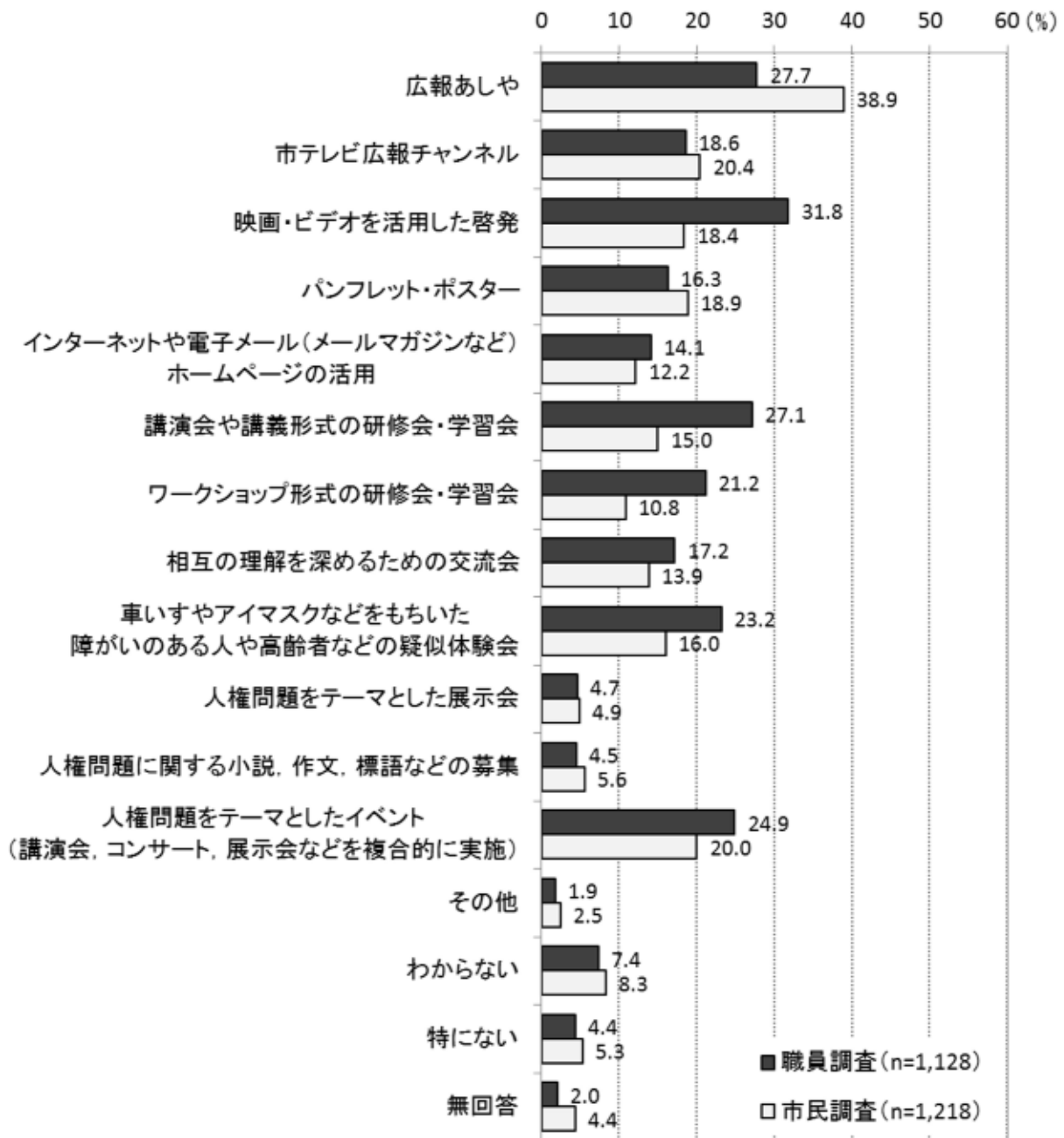
性別にみると、男性では「映画・ビデオなど視聴覚教材を利用した啓発活動」が 39.6%、女性では「講演会・研修会などによる啓発活動」が 50.0%と最も多くなっています。続いて、年齢別にみると、10～20 歳代と 30 歳代では「映画・ビデオなど視聴覚教材を利用した啓発活動」、40 歳代以降では「講演会・研修会などによる啓発活動」が最も多くなっています。

図表 24-2 性別・年齢別×人権問題の啓発活動で参加・活用したいもの

	(n)	講演会・研修会などによる啓発活動	映画・ビデオなど視聴覚教材を利用した啓発活動	市の広報紙や冊子などを活用した啓発活動	地域での啓発リーダーを養成し、住民相互啓発を促す活動	地域学習グループなど自主的な学習による社会教育活動	職場における啓発活動	PTAによる啓発活動	その他	不明・無回答
全体	1,128	44.0	43.2	21.6	4.3	8.2	28.5	5.6	2.9	7.1
男性	505	36.6	39.6	20.8	6.1	8.9	24.8	5.1	5.0	8.1
女性	604	50.0	46.7	22.7	2.8	7.5	31.6	6.0	1.3	5.3
10～20 歳代	229	25.3	43.7	14.8	7.4	10.0	24.9	3.1	2.6	6.1
30 歳代	271	38.7	39.9	21.0	3.3	5.2	31.0	4.1	2.2	5.2
40 歳代	236	46.6	37.3	22.9	3.8	9.7	26.7	7.6	3.4	7.2
50 歳代	303	58.4	49.8	25.1	3.0	7.9	31.0	5.9	2.6	7.3
60 歳代	71	53.5	50.7	29.6	5.6	8.5	26.8	11.3	7.0	7.0

問 25 あなたは、人権啓発を進めるためには、どのような啓発活動が効果的と思われますか。
【複数回答】

図表 25-1 効果的と思われる人権啓発活動



効果的と思われる人権啓発活動については、「映画・ビデオを活用した啓発」が 31.8%と最も多く、次いで「広報あしや」が 27.7%、「講演会や講義形式の研修会・学習会」が 27.1%となっています。市民調査と比較すると、回答の割合が高かった上位 3 つの項目が異なり、職員と市民との考えに違いが見られました。「広報あしや」と回答した人が 5.0 ポイント以上低くなった一方、「映画・ビデオを活用した啓発」、「講演会や講義形式の研修会・学習会」、「ワークショップ形式の研修会・学習会」、「車いすやアイマスクなどをもちいた障がいのある人や高齢者などの疑似体験会」と回答した人の割合が 5.0 ポイント以上高い結果となりました。

性別にみると、男女ともに「映画・ビデオを活用した啓発」が最も多くなっています。ただし、回答した人の割合は男女間で7.7ポイントの差が見られました。続いて、年齢別にみると、10～20歳代、40歳代と50歳代では「映画・ビデオを活用した啓発」、30歳代では「広報あしや」、60歳代では「講演会や講義形式の研修会・学習会」が最も多くなっています。年齢によって効果的と思われる人権啓発活動に違いが見られました。

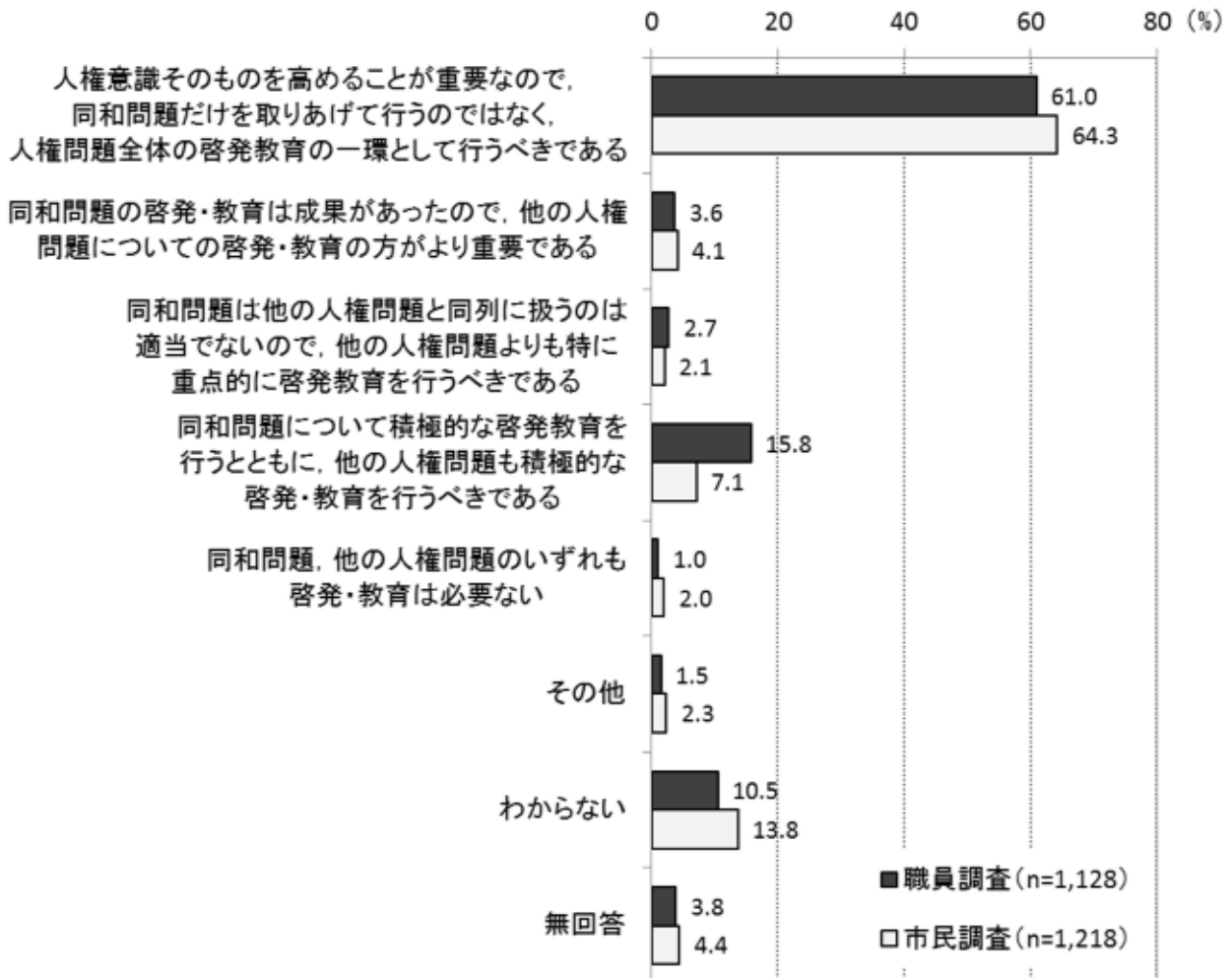
図表 25-2 性別・年齢別×効果的と思われる人権啓発活動

	(n)	広報あしや	市テレビ広報チャンネル	映画・ビデオを活用した啓発	パンフレット・ポスター	インターネットや電子メール ホームページの活用	講演会や講義形式の研修会 ・学習会	ワークショップ形式の研修会 ・学習会	交流会	相互の理解を深めるための 交流会	障がいのある人や高齢者 などの疑似体験会	人権問題をテーマとした 展示会	人権問題に関する小説、 作文、標語などの募集	人権問題をテーマとした イベント
全体	1,128	27.7	18.6	31.8	16.3	14.1	27.1	21.2	17.2	23.2	4.7	4.5	24.9	
男性	505	25.7	19.2	28.1	13.9	13.7	23.8	16.6	16.6	17.0	4.4	3.8	18.8	
女性	604	29.6	18.7	35.8	18.7	14.6	30.0	25.2	17.5	29.0	5.0	5.3	30.1	
10～20歳代	229	18.3	13.5	35.8	17.5	17.0	19.2	21.4	20.5	29.3	2.6	3.9	18.3	
30歳代	271	26.2	12.5	25.5	16.2	16.2	19.9	18.1	15.5	24.7	4.1	3.3	19.6	
40歳代	236	26.3	20.8	29.7	14.8	11.4	28.8	22.9	17.4	19.9	5.1	5.1	19.9	
50歳代	303	35.6	24.1	37.0	17.5	13.5	35.3	25.1	16.5	21.5	6.3	5.3	36.3	
60歳代	71	36.6	32.4	35.2	15.5	8.5	40.8	14.1	15.5	19.7	5.6	7.0	33.8	

	(n)	その他	わからない	特にない	不明・無回答
全体	1,128	1.9	7.4	4.4	2.0
男性	505	2.2	8.9	7.3	2.4
女性	604	1.5	5.8	2.2	0.8
10～20歳代	229	2.2	3.5	6.6	1.7
30歳代	271	1.8	9.6	4.4	1.1
40歳代	236	1.3	9.3	4.2	0.0
50歳代	303	2.3	6.6	3.0	2.3
60歳代	71	1.4	5.6	4.2	4.2

問 26 人権問題には、同和問題のほか女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等の問題がありますが、今後の人権問題の啓発教育のあり方について、あなたの考えに近いものはどれですか。【複数回答】

図表 26-1 今後の人権問題の啓発教育のあり方について



今後の人権問題の啓発教育のあり方について、「人権意識そのものを高めることが重要なので、同和問題だけを取りあげて行うのではなく、人権問題全体の啓発教育の一環として行うべきである」が 61.0%と、市民調査と同様に、回答した人の割合が最も高くなっています。次いで、「同和問題について積極的な啓発教育を行うとともに、他の人権問題も積極的な啓発・教育を行うべきである」が 15.8%で、市民調査と比べて 8.7 ポイント高い結果となりました。

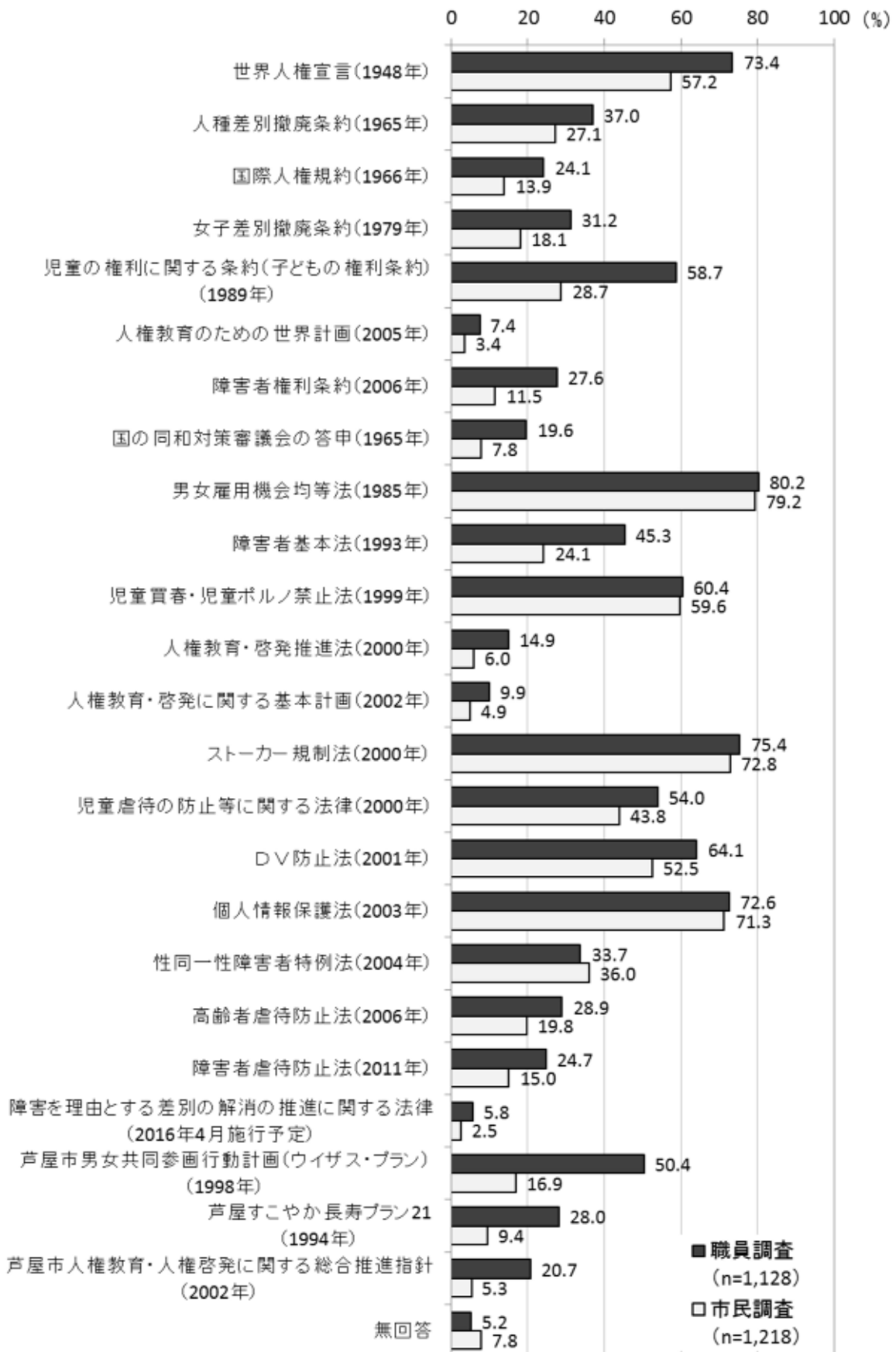
性別・年齢別にみると、男女ともに、また、いずれの年齢においても「人権意識そのものを高めることが重要なので、同和問題だけを取りあげて行うのではなく、人権問題全体の啓発教育の一環として行うべきである」が最も多くなっています。

図表 26-2 性別・年齢別×今後の人権問題の啓発教育のあり方について

	(n)	人権意識そのものを高めることが重要なので、同和問題だけを取りあげて行うのではなく、人権問題全体の啓発教育の一環として行うべきである	同和問題の啓発・教育は成果があったので、他の人権問題についての啓発・教育の方がより重要である	同和問題は他の人権問題と同列に扱うのは適当でないので、他の人権問題よりも特に重点的に啓発教育を行うべきである	同和問題について積極的な啓発教育を行うとともに、他の人権問題も積極的な啓発・教育を行うべきである	同和問題、他の人権問題のいずれも啓発・教育は必要ない	その他	わからない	不明・無回答
全体	1,128	61.0	3.6	2.7	15.8	1.0	1.5	10.5	3.8
男性	505	59.0	3.8	3.2	11.9	1.6	3.0	14.1	3.6
女性	604	63.7	3.6	2.3	18.5	0.5	0.3	7.9	3.0
10～20 歳代	229	60.3	3.5	1.3	14.8	2.6	2.2	13.1	2.2
30 歳代	271	65.7	3.7	3.0	12.9	0.7	1.5	11.1	1.5
40 歳代	236	58.1	5.9	2.5	16.5	0.0	0.4	11.9	4.7
50 歳代	303	61.1	2.3	2.6	19.5	1.0	1.7	7.9	4.0
60 歳代	71	62.0	2.8	7.0	11.3	0.0	2.8	9.9	4.2

問 27 あなたは、次にあげる条約、法律、答申、実施計画などについて、名前を見聞きしたり、内容を知っているものはどれですか。【複数回答】

図表 27-1 人権に関する条約・法令等の認知度



人権に関する条約・法令等の認知度としては、「男女雇用機会均等法」が 80.2%と最も多く、次いで「ストーカー規制法」が 75.4%、「世界人権宣言」が 73.4%となっています。市民調査と比較すると、「世界人権宣言」の認知度が 16.2 ポイント高い結果となり、「個人情報保護法」に代わって、上位 3 つに入りました。挙げられている 24 件の条約・法令等のうち 17 件について、市民調査よりも認知度が 5.0 ポイント以上高い結果となりました。

性別にみると、男女ともに「男女雇用機会均等法」の認知度が最も高くなっています。年齢別にみると、10～20 歳代、30 歳代、40 歳代と 50 歳代では「男女雇用機会均等法」が、60 歳代では「ストーカー規制法」が最も高くなっています。

図表 27-2 性別・年齢別×人権に関する条約・法令等の認知度

	(n)	世界人権宣言	人種差別撤廃条約	国際人権規約	女子差別撤廃条約	条約 児童の権利に関する 世界計画	人権教育のための 障がい者権利条約	障がい者権利条約 の答申	国の同和対策審議会の 答申	男女雇用機会均等法	障がい者基本法	禁 止 法 児童買春・児童ポルノ 禁止法	人権教育・啓発推進法	人権教育・啓発に 関する基本計画
全体	1,128	73.4	37.0	24.1	31.2	58.7	7.4	27.6	19.6	80.2	45.3	60.4	14.9	9.9
男性	505	68.9	38.8	25.1	28.3	47.3	5.5	18.4	20.8	75.4	39.4	61.6	15.8	9.5
女性	604	78.1	35.6	23.3	33.8	69.2	8.9	35.4	18.5	85.3	50.7	60.3	14.2	10.3
10～20 歳代	229	83.0	48.5	38.0	42.8	68.6	8.3	27.5	8.3	85.6	52.4	64.2	14.4	10.0
30 歳代	271	74.9	33.9	21.4	33.6	53.9	5.9	22.5	10.3	81.5	46.5	63.8	14.0	7.7
40 歳代	236	68.2	28.4	21.6	27.5	51.7	5.5	26.7	17.8	74.6	41.9	55.9	11.4	8.9
50 歳代	303	72.6	36.0	18.8	23.4	62.4	9.2	35.6	32.3	82.2	45.2	59.1	17.5	11.2
60 歳代	71	66.2	47.9	23.9	33.8	63.4	9.9	19.7	45.1	78.9	35.2	64.8	22.5	16.9

	(n)	ストーカー規制法	児童虐待の防止等 に関する法律	DV防止法	個人情報保護法	性同一性障がい者特例法	高齢者虐待防止法	障がい者虐待防止法	障がい者理由とする差別 の解消の推進に関する法律	計画 芦屋市男女共同参画行動 計画	芦屋すこやか長寿プラン 21	芦屋市人権教育・人権啓発 に関する総合推進指針	不明・無回答
全体	1,128	75.4	54.0	64.1	72.6	33.7	28.9	24.7	5.8	50.4	28.0	20.7	5.2
男性	505	74.1	46.7	60.8	69.7	29.1	25.3	21.6	5.7	47.7	30.7	21.6	6.9
女性	604	77.2	60.8	67.5	75.5	37.6	31.5	27.3	5.5	52.3	25.5	19.5	2.8
10～20 歳代	229	66.4	53.3	60.3	72.1	24.5	33.2	27.9	2.6	38.9	23.6	15.3	4.8
30 歳代	271	80.4	50.2	66.8	71.6	32.5	27.7	25.5	6.3	49.1	26.9	16.2	2.2
40 歳代	236	73.3	52.1	64.4	73.3	34.7	24.2	19.9	6.8	45.8	26.3	17.8	6.8
50 歳代	303	79.9	61.1	64.4	73.6	40.6	31.7	26.7	6.3	59.7	29.7	26.1	5.0
60 歳代	71	80.3	56.3	71.8	76.1	38.0	22.5	21.1	7.0	69.0	43.7	39.4	4.2

講演会参加状況別にみると、参加の有無にかかわらず、「男女雇用機会均等法」の認知度が最も高くなっています。すべての条約・法令等について、参加した人の方が認知度が高くなっています。

図表 27-3 講演会参加状況別×人権に関する条約・法令等の認知度

	(n)	世界人権宣言	人種差別撤廃条約	国際人権規約	女子差別撤廃条約	児童の権利に関する条約	世界計画 人権教育のための	障がい者権利条約	国の同和対策審議会の答申	男女雇用機会均等法
人権講演会等に参加した	664	81.8	44.9	27.9	36.3	72.9	9.6	36.7	28.8	86.3
人権講演会等に参加したことがない	434	62.4	25.6	18.4	24.0	38.9	3.9	14.5	5.5	73.5

	(n)	障がい者基本法	児童買春・児童ポルノ禁止法	人権教育・啓発推進法	基本計画 人権教育・啓発に関する	ストーカー規制法	児童虐待の防止等に関する法律	DV防止法	個人情報保護法	性同一性障がい者特例法
人権講演会等に参加した	664	52.7	64.9	20.2	12.8	78.8	60.7	65.1	76.7	37.8
人権講演会等に参加したことがない	434	35.7	55.1	6.9	5.1	71.7	45.2	64.5	68.7	28.1

	(n)	高齢者虐待防止法	障がい者虐待防止法	障がい者理由とする差別の解消の推進に関する法律	計画 芦屋市男女共同参画行動	芦屋すこやか長寿プラン21	芦屋市人権教育・人権啓発に関する総合推進指針	不明・無回答
人権講演会等に参加した	664	33.1	29.5	8.0	59.6	32.8	27.6	2.4
人権講演会等に参加したことがない	434	23.3	18.4	2.5	37.8	21.9	11.3	7.1

芦屋市人権についての職員意識調査報告書

平成 27 年 3 月発行 芦屋市 市民生活部 人権推進課
〒659-8501
兵庫県芦屋市精道町 7 番 6 号
電 話 : 0797-38-2055
F A X : 0797-38-8694